

第 1 回 館山市議会定例会会議録

(第 3 号)



1 平成4年3月10日(火曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 26名

|            |            |
|------------|------------|
| 1 番 秋山 光章  | 2 番 増田 基彦  |
| 3 番 島田 保   | 4 番 斉藤 実   |
| 5 番 宮沢 治海  | 6 番 植木 馨   |
| 7 番 鈴木 順子  | 8 番 永井 龍平  |
| 9 番 脇田 安保  | 10 番 庄司二三男 |
| 11 番 山崎 雅己 | 12 番 岩村 勝弘 |
| 13 番 榎本 春光 | 14 番 小宮 利夫 |
| 15 番 山中金治郎 | 17 番 鈴木 忠夫 |
| 18 番 日下 君敏 | 19 番 川名 正二 |
| 21 番 神田 守隆 | 22 番 福原 勤  |
| 23 番 石井 昌治 | 24 番 石井 輝久 |
| 25 番 流山源次郎 | 26 番 辻田 実  |
| 27 番 横溝 功  | 28 番 飯田 義男 |

1 欠席議員 2名

|            |           |
|------------|-----------|
| 16 番 鈴木 勝美 | 20 番 生稻 陞 |
|------------|-----------|

1 出席説明員

|                  |                   |
|------------------|-------------------|
| 市 長 庄司 厚         | 助 役 小幡 清之         |
| 収 入 役 渡辺 弘       | 市長公室長 佐藤 輝雄       |
| 総 務 部 長 二通 英雄    | 民 生 部 長 佐藤 澄雄     |
| 経 済 部 長 脇田 元始    | 建 設 部 長 伊東 衛      |
| 水 道 課 長 鈴木 信一    | 教 育 委 員 会 長 伊藤 昌彦 |
| 教 育 委 員 会 長 福原 修 | 農 業 委 員 会 長 斉藤 明  |

1 出席事務局職員

|               |                   |
|---------------|-------------------|
| 事 務 局 長 兵藤 恭一 | 事 務 局 長 補 佐 土橋 康彦 |
|---------------|-------------------|

書 記 鈴木 哲  
書 記 加藤 浩一

書 記 鈴木 修一

# 1 議事日程（第3号）

平成4年3月10日午前10時開議

## 日程第1 行政一般通告質問

開 議 午前10時04分

◎議長（福原 勤君） 本日の出席議員数25名、これより第1回市議会定例会第3日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

## 行政一般通告質問

◎議長（福原 勤君） 日程第1、これより通告による行政一般質問を行います。

質問の方法等はきのうと同じであります。

これより発言を願います。

26番議員辻田 実君。御登壇願います。

（26番議員辻田 実君登壇）

◎26番（辻田 実君） 3点について質問を申し上げます。

まず最初に、県が2月の14日の92年度の当初予算におきまして、県立南地域文化ホール建設を館山市に決定したことを明らかにされましたけれども、このニュースは館山市にとって久しぶりの朗報であり、大いに歓迎をしたいと存じます。したがって、この次は武道館の建設になろうかと思うのでございます。私はこれまで3回にわたりこの問題について質問をしまいましたが、いずれも財政難のために困難であるとの回答でございました。これは半澤市長のときの質問であり、文化都市を目指し、強い信念で取り組んでいた半澤市長だけに、やむを得ないことと妥協をしまっていました。

しかし、庄司市長は半澤市長と異なり、福祉、教育、文化、スポーツを市政の柱といたしまして、昨年度も本年度も施政方針の中で最重点課題として

取り組んできているところでございます。したがって、最重点課題として提案をしているからには、万難を排してもスポーツの振興については具体化をしてもらいたいと思うのでございます。私も政治生命をかけて協力いたしてまいりたいと思うのでございます。市長が強い信念を持って取り組めば、必ず道は開けると思うのでございます。21世紀は高齢化と情報の時代だと言われております。その中でヨーロッパの国を見ても、先進国ではスポーツが国の最重要政策になっております。日本も現在では世界の中で最も進んだ国になっております。それゆえ庄司市長のスポーツを市政の最優先課題として提案しておりますことは、正しいことであり、先見性のある政策であるものと私は歓迎をいたすところでございます。

そこで、私はこの政策を支持する立場から、武道館の建設による市政の活性化について再度質問を申し上げます。第1は、昭和38年に制定されたスポーツ振興法第4条によるスポーツの振興に関する基本計画でございます。館山市には現在基本計画はございませんが、これではスポーツの振興を施政方針で強調しても無意味でございます。早速法律に基づいたところの策定をしてもらいたいと存じます。この点について市長の所信をお伺いいたすところでございます。

第2は、武道館の建設です。館山市の歴史と現況の中で、武道館の建設こそ最も意義のあることだと存じます。この点については、繰り返しますが、日本一の武道王国の伝統を持つ館山市にふさわしい武道館の建設を決意していただきたいと思うのでございます。これまでの経緯から見ても、即答ができなくても、文化ホールの建設と同じように市民運動を起こし、その先頭に立つ御意思があるのか、この点についてあわせてお伺いする次第でございます。

第3は、半澤市長時代には何回も体育課の独立を求めましたが、無理でございました。庄司市長は就任と同時に率先してスポーツ課を設置したことは、見事なクリーンヒットであったと私は思うのでございます。賛意と敬意を表したいと思います。しかし、スポーツ課がスタートして1年、スポーツ課の内容は従来と余り変わりがないように見受けられます。スポーツ課ができて

どんな方針と政策を掲げて活動をしてこられたのか、現状を教えてくださいと存じます。

また、スポーツ行事が各課に分かれて開催しておりますが、スポーツの一元化について、スポーツ課の設置と同時にできないものか、この点についてお伺いをするところでございます。

次の質問に移ります。館山駅西口開発と大型店による既存商店の共存について質問をいたします。63年6月の商業統計調査によりますと、市内の小売業販売額は629億円でございます。平成3年1月21日に商調協で結審したジャスコの拡張は、現在の2,800平米から3倍の9,200平米が認められ、その販売額は70億円が予定されております。また、西口エス・シーは平成3年12月に結審し、1,500平米の床面積約100億円の売り上げを目標にしております。したがって、飲食店、バー等の店を除いた一般商店の半数以上の売上額を占める数字になるわけでございます。これでは館山市の商店中心街の館山銀座商店街の売り上げは、算術計算的に見ていってもゼロになってしまうわけでございます。

そこで、お伺いいたします。銀座商店街、ジャスコ並びに西口エス・シーの3拠点商店街は共存できると思っておられるのでしょうか、この点について具体的に売上額を中心としたところの数値をもって示していただきたいと思うのでございます。

また、1つ、ジャスコ館山店の拡張とその見通しについてお伺いをいたしたいと思うわけでございます。

2つ目に、同じく西口ショッピングセンターの建設見通しについて、以上の点をあわせて説明を願いたいと思うのでございます。

3番目に、県南地域文化ホールの建設と美術館の建設、さらには富士ディーゼル跡地利用について質問を申し上げます。まず第1に、文化ホール建設の候補地としてコミュニティセンター前広場が挙げられていましたが、その後の状況はどのように進んでおられるのかお伺いをしたいわけでございます。

そして、美術館の建設についても伺いたいと思います。

文化都市館山市の状況からいって、文化ホールよりも美術館を先につくる

べきだと思っておりましたが、「さわやかハートちば5か年計画」に南地域に文化ホールを建設する計画が示されたので、棚ぼた的に館山市に文化ホールを建設することが決まったわけございまして、偶然なことながらも非常に幸いなことであったと思うし、この点については率直に歓迎をしたいところでございます。したがって、近い将来には美術館がないのでこれも建てなくてはならないと思うのでございます。それには文化ホールとセットで隣接地を確保することも大切なことだと思うのでございます。美術館と文化ホールを中心にした文化地域の造成についてはどのように考えておられるのか、この点について御答弁をお願い申し上げます。

第3に、富士ディーゼルの跡地の3分の1は終末処理場として確保できたことは、画期的な成果であると思い、高く評価をいたしたいと思うのでございます。しかし、残りの3分の2が現在もそのままの状況のようでございます。館山市の財政事情と県と2年間にわたり交渉してきた跡地利用について、文化ホールをお願いし、その残りを美術館を初めとする文化施設の計画をいたすれば最高だと思うのでございますけれども、この点についてはどうなのでしょう。夢のような話ですが、政治は夢を見る男のロマンと執念が夢を現実的なものにさせるということが言われております。市長の考えと所信を伺わせていただきたいと存じます。

最後に、昨日の日下議員の質問にもございましたが、館山市のリゾートは予定どおりにできるものと市長は繰り返し答弁をいたしておりますので、私は市長の答弁を絶対的に信用をいたしております。信用しているだけに必ず実現してもらわなくてはならないとも思っているわけでございます。そこで、リゾートの目玉に地域文化ホールを組み入れてダイナミックなものにすれば、それが引き金になってリゾートのテンポも早まり、一石二鳥の成果が考えられるのではないかとと思うのでございますけれども、この点についてはいかにお考えになるのか。そして、こうした対応も検討される御意向があるのかどうか、この点について御質問を申し上げる次第でございます。

以上、質問を終わりますが、答弁により再質問をさせていただきたいと思っております。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの辻田議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1の武道館の建設による市政の活性化についての御質問、1、2、3ございますが、これについては教育長より答弁いたさせます。

大きな第2の館山駅西口開発に伴う問題でございます。その小さな第1点目、ジャスコ館山店の拡張と見通しについてでございますが、ジャスコ館山店につきましては、平成3年1月27日商調協におきまして結審されております。その後の詳しい状況につきましては伺っておりませんが、今後引き続いて大店法第5条申請がなされるほか、諸手続を進められるものと予測されます。

次に、小さな第2点目、西口ショッピングセンターの建設見通しについてでございますが、平成3年12月商調協において結審されております。発展する南房総の館山にふさわしい品位と、西口地区土地地区画整理事業に適合できる景観などに配慮した計画であると伺っております。今後ジャスコ館山店と同様、5条申請等手続を進められるものと予測しております。

次に、小さな第3点目、既存商店と大型店の共存についての御質問でございますが、基本的には大型店にはない魅力ある商店街づくりが必要と考えております。館山市といたしましては、モデル商店街指定事業、商店街コミュニティモデル事業、商店街共同施設整備事業などによりまして、商店会の活性化と魅力ある環境整備に対し助成してまいりました。また、大型店の出店に対応し、資金の融資を受けた者に対し利子補給いたします大型店進出対策資金利子補給事業も実施してまいりましたことは、御案内のとおりでございます。今後さらにこれらの施策を推進してまいりたいと考えております。

次に、大きな第3、県立文化ホールの建設と、それにあわせた美術館の建設及び富士ディーゼル跡地利用についての御質問でございますが、まず小さな第1点目、文化ホール建設の受け入れに関する御質問でございますが、平成4年度の県知事所信表明におきまして、「南総文化会館（仮称）を館山市に建設するための基礎調査を実施する」という方針が示されたところでござ



います。館山市といたしましては、建設候補地としてコミュニティセンターに隣接する市有地を県当局に示してございますが、現在県の新年度予算案の審議中でありまして、すべてはこれからと伺っております。今後県当局と十分協議を重ねる中で、地域住民の要望等を反映したものとなりますよう努力してまいります。

次に、小さな第2、第3、第4点目の御質問につきましては、関連いたしますので一括してお答えしたいと存じます。美術館の建設ということについてでございますが、今のところ建設するというまでは、そういう考え方は持っておりません。したがって、それに関連いたします文化施設等の文化地域造成につきましては、貴重な御提言として承っておきたいと、こう考えます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 福原教育長。

（教育長福原 修君登壇）

◎教育長（福原 修君） お答えをいたします。

大きな1、武道館の建設による市政の活性化についての御質問でございますが、そのうちの小さな1、スポーツ振興に関する基本計画の策定についての御質問でございますが、スポーツ振興法第18条の2の規定により、スポーツ振興審議会が設置されております市は、現在のところ平成3年度末県下29市のうち13市であり、44.8%の設置割合となっております。スポーツ振興審議会は、市町村におきますスポーツ振興の基本計画にかかわる重要な任務を持っておりますので、今後他市の活動状況を参考にして前向きに検討してまいりたいと、このように考えております。

次に、小さな第2点目、文化ホールに続いて武道館の建設をする市民運動についての御質問でございますが、現在市営第一柔剣道場が設置され、市民に利用されております。また、市内小、中、高等学校の体育施設の開放や、平成2年6月には館山運動公園体育館もオープンし、市民のスポーツ活動に幅広く利用されておりますので、武道館の建設につきましては、現時点では考えておりません。

次に、小さな第3点目、スポーツ課の設置による新しい活動などに関する御質問でございますが、いつでも、どこでも手軽にできるスポーツの日常化を図ることを目的に、第1回市民スポーツレクリエーション祭を実施し、軽スポーツの普及に努めてまいりました。また、だれでも気軽に参加できるスポーツ教室の開催やグループづくりを通してスポーツ人口の拡大を図っております。今後も各種体育大会への積極的参加を通じて競技力の向上や市民の生涯スポーツの推進に努力してまいりたいと思っております。また、行事等につきましては、関係団体と連絡を取り合い、実技指導や助言を行っております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） 再質問をさせていただきます。

まず、市長にお伺いをいたします。現在の館山市のスポーツは、20年前と比べて私は決してレベルは低下しておるとは思いません。少しながらも向上しておると思いますけれども、県下におきますところの他の市町村が館山のレベルを超える速いテンポで進んでおるために、現在では総体的に見て、20年前の館山市のスポーツ王国と言われた時代と比較して、現在のスポーツレベルは総体的に県下の中でも後退しておるというふうに見ているわけでございますけれども、この点についてはどのように認識されておるのか、まずお伺いしたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 今の御意見にございましたとおり、スポーツ人口そのものは、さらにスポーツを楽しむ者は、20年前に比べますとはるかにふえていると思います。しかし、当地域の課題は、これは御案内のとおり、若者の流出、高齢者の増加、さらに大きな企業体が存在なくて、実業団によるハイレベルのスポーツ展開、こういうものが非常に少ないということがございますので、御意見のとおり総体的な立場で考えれば、そのとおりかと、こう考えます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） 館山市は柔道、剣道におきましては、市の一つの誇りある私は財産だというふうに思っているわけですが、20年前までは県大会では常に連続優勝してまいりましたが、関東大会でも、全国大会でも、小学校においてもスポーツ少年団で2回ほど全国優勝しておるし、中学校も庄司市長がおられました館山二中が全国制覇をしておりますし、高校も2つの地元高校が全国優勝しているわけですが、柔道においてもしかりでございます。日本じゅうどこへ行っても、柔道の日本選手権を2人も出した地域というのはこの安房だけでございます。かつて三船久蔵の出た久慈市へ行って自慢話をしたときに、向こうでは三船十段がいるということだったんですけれども、館山は全日本選手権をとったのが2人いる。そして世界選手権とった高木君を入れると3人もいる。その他日本のトップ選手はあまたいるんだけれどもということでもって向こうの町長さんとお話したときに、館山というのはすごいところだなんていうことでもって感心しておったわけですが、そのぐらい館山市を中心とした安房館山市の柔道、剣道は、小学校から中学、高校、そして柔道の全日本選手権、さらには剣道の全日本選手権において上位に常に多くの選手を出してきたことについては、全国にこれだけのところは私はないと確信しております。現在ではこうした種目においても、県大会において上位に入ることは非常に困難になってきております。小学校でもそうです。スポーツ少年団、私がやっているときには10連勝しましたが、私がやめたわけでもないんでしょうけども、この3年ばかりちょっと館山市優勝できなくて、ちょっと残念なんですけれども。中学、高校においても県大会、柔道、剣道ですというのは、ここ数年ちょっと難しくなっている。準決勝ぐらいまでいけばいい方だということになっていまして、20年前の安房館山の全盛を見るときに、非常に悲しい状況でございますけれども、この点についてはどのようにお考えになっておるのか、ひとつ市長としてのお考えを伺わせていただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 当地域のスポーツ人口そのものが減っていないと申し上げましたのは、今のお話と一致しますが、子供たちのスポーツを愛し、スポーツに汗を流し、そういうものは結構多いのでございます。具体的には当館山のスポーツ少年団の野球チームが全国レベルで選ばれて、先日も外国まで遠征しております。こういうハイレベルの者がおります。また、中学、高校のおっしゃるとおりの柔剣道、あるいは球技関係でも、一部の者は相当なレベルまでいっておりますが、当地域の一番の課題は、先ほど申し上げました、それに続きます青壮年段階の方々の数、就職の問題、さらにスポーツに打ち込むとがないんでございますから、そういう大きな課題を抱えているという実態かと思えます。ただ、まだ申し上げる段階じゃございませんが、平成4年度中に当館山市で全国的な何かイベントを今の柔剣道に絡めまして展開すべく協議中でございますが、ちょっとまだ発表する段階じゃございませんが、そうしてレベルアップを図っていききたいと、武道王国安房の名を全国的にひけらかせていききたいとは考えています。

以上であります。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） 昨年度、年としてはおとしになるわけでございますけれども、県民体育大会が県南で開催されたわけでございます。たまたま館山市が剣道の会場になったわけでございますけれども、この大会でもって剣道の館山は、久しぶりに一般の部でもって優勝したわけです。私も剣道連盟の顧問をやっておりますものですから、優勝するのは久しぶりだなと言ったら、余り冷やかさないでくださいよというわけで、これからかつてのようにもう常勝でいくようにしたいと思うからと、それには市の方も力を入れてもらわなきゃ困るんじゃないかと、こういうことを祝勝会の席上私は言われて、まさにそのとおりじゃないか。

国体のときも非常に力入れまして、私当時スポーツ少年団の本部長をやっておったものですから、本間市長から、辻田さん、柔道、剣道、館山が会場なんだけど、これ優勝させるにはどうしたらいいかいということを言われて、柔道、剣道のスポーツ少年団にそれぞれ50万程度の金を出してくれ

ば、必ず全国優勝できるようにしますよということで、私もかなり大ばらを吹いて、今の金にすると 500 万ぐらいの金です、20 年前のことですから。したら本間さん、ああいいでしょうよ。辻田君、金は幾らでも出すから、優勝するようにしてくれよと、こういうことでもって、この金を持って強化に励みました。全国スポーツ少年団、私は全国の理事やっておったものですから、市町村がそうしたスポーツ少年団の強化に当時の金として 150 万、柔道、剣道についてはそれぞれ 50 万の金を出すということは異例なことでもって、日本体育協会でも驚いておって、これを全国に紹介するぐらいだったわけでございますけれども、そしてその成果はやはり千葉国体の中で御案内のように、一般の部で優勝、そのうちの 4 人の選手が館山市の中でもって育てて、そのうちの 3 人がスポーツ少年団でもって育成した強化選手であった。同時に地元安房高校が高校の部でもって全国優勝した。そのうちの 3 人までがスポーツ少年団で強化した選手が入っていたわけでございます。これはやはり市を挙げて燃えるような国体の成功、柔道、剣道を全国優勝させるんだと、地元でやるからという市長を先頭とした熱意とともに、予算の面にも反映されてやった成果が、やはりこういうものをもたらせたんじゃないか。国体が終わってからだんだん寂しくなってきました、今じゃ関東大会でもって地元の高校が優勝するのは大変でございます。そういうような状況になってきておりますけれども、たまたま昨年館山市が県民大会の剣道場に決まったということでもって、剣道連盟の方も 3 年程度強化しまして、半澤市長もこの剣道の強化費を余分に出してくれまして、力を入れましたところが、たちどころに優勝した。こういうことでもって、私は館山市のこの土壌の中でもって市長のスポーツに対して、特に柔道、剣道というのはもう土壌があるわけですから、戦前からの伝統が。力を入れれば、それだけもう出るんだけど、ちょっと力の入れ方が足りないんじゃないかと私は率直に言うんですけども、この点どのようにお考えになっておるのでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 貴重な御提言と承っておきますが、今ここで余分なお金とかそういうことはうかつに使えませんので、要するに地域住民が一体

となって武道振興のために当たらなきゃいかぬと、こういう御意見かと思えます。ありがとうございました。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） この点について私はもうちょっと少ししつこいようですけども、質問したいんですけど。ことしのアルベールビル冬季オリンピックが開催されて、日本は非常に——かつて何十年間かかってとったメダルの数を、同じメダル数をとるというもう最高の躍進を占めたわけでございますけれども、これは日本の国の経済が、今世界の不況の中において最もすぐれていた国力の力が出たんじゃないかと、こういうことが言われております。このことは逆に、これまで4連勝を続けてきましたところのソ連が、国内のごたごたというとおかしいですけど、国内の分裂があって、初めてドイツに金メダルの数、銀メダルの数でもって譲らざるを得なかった。逆にドイツは東西ドイツの統一を実現して意気上がっておりますし、日本に次いで経済においては世界の東西の両雄として闊歩しておるものですから、アメリカをしのいでトップになったということは、まさにその国力と経済がオリンピックでも率直に出てくるんだなということが示されたものだ。これはスポーツ界の方々でも、やる気になれば、国力がオリンピックにも反映するんだ。単にあんなスポーツが勝ったから負けたから、それがどうだいということじゃなくて、あれに勝つとそこの国というのは非常に飛躍的に進むものでございまして、そういう点から見ますと、現在の館山市の中は、どちらかというとやっばしいろんな経済状況、政治状況の中でもって、過疎化を余儀なくされている中で、ややもすると若い人たち、市民も含めて沈滞さみの中において、せめてスポーツ、伝統のある柔道、剣道について力を入れれば、これはもう全国から安房といえば柔道、剣道だったら一目も二目も置くわけでございます。

たまたま教育長には福原先生を迎えております。安房高の校長時代に国体においては、教え子をもうほとんど独占するぐらいに出して、全国優勝の原動力になった名校長であったわけでございまして、そのやはり力を市政の中においても私は発揮してもらいたいということで期待しているわけでござい

まして、半澤市長は文化市長であったし、私はどう見ても庄司市長は、言い方は悪いんですけども、やっぱりスポーツ市長だと思いますよ。長い間スポーツにもかかわっていたし、館山市の中でもって、館山市の体協の理事会、何回も顔会わせて、非常にスポーツに熱心な人だなというふうに思っておりまして、この方が市長になられたわけでございますから、私はスポーツに対しては非常に明るい展望が開かれたというふうに思うわけでございますけど、どうもまだ1年じゃその期待が出ておらないように思うんですけども、福原教育長と庄司市長が組んでやはりスポーツでもってぐんと頭角をあらわさないようじゃ、2人のこれまでの経緯からいってちょっと一抹の寂しさは、私以上に御両者にあるんじゃないかと思うんですけども、市議会がよほどこれを協力しないということになりかねないので、私は議員の一人として大いに2人のこれまでの名声と功績をこの市政の場について、また再び発揮してもらいたいと思うんですけども、この点については市長はいかがなものでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 熱烈な御支援ありがとうございました。頑張っています。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） 非常に力強い言葉いただきまして——私はやっぱりこれからの時代は、国際的にも見てもやっぱり21世紀はスポーツの時代だと思っています。ヨーロッパの16カ国の中におきましては、90%までがスポーツ省があるんです。文部省はなくてもスポーツ省があるんです、国に。それほどもう既にスポーツというのは——先進国ほどスポーツに力を入れないと、民族が減びるということを言われている。後進国はそれなりの原始的な生活していますから、原始的生活というと怒られますけれども、余りやらなくても運動不足にならないし、いいんですけども、先進国になりますという、やはりどうしてもスポーツに力を入れないと、民族の存亡にかかわるということが言われているわけございまして、ヨーロッパじゃそういう面においてはやはり一生懸命にやるし、オリンピックもやっぱり国力の高いと

ころ、国民生活の水準の高いところほど強いですよ、やはりそれだけ力入れているから。これはやはり館山市が21世紀に向かってやるには、やっぱりこれまでの伝統のスポーツというものを通していかないと、またリゾートもそういう面も含まれているわけでございますけれども、ひとつ庄司市長、福原教育長には今までの実績からいって大いに期待しているわけでございますから、よろしくお願いいたします。

そういう両巨頭を市政のトップに迎えていながら、館山市にスポーツ振興法4条によるところの基本計画がないというのは、ちょっと私は残念でもって、これは今までの市長さんの好みと、また文化に対する異常なまでの執念が置き去りにしたのかもわかりませんが、これはこれとして私は高く評価したい。庄司市政になったからには、やはりスポーツの振興法に基づくところの4条の、これは市町村においては設置してもよいということですから、しなくてもよいという逆があるんですけれども、先ほど教育長の答弁にございましたように、18市のところが置いているわけでございますから、館山市がその18市に残れない。やっぱり先端を切ってやるぐらいのことが必要だと思うわけでございますけれども、この点については、これは教育長さんの管轄になると思いますけれども、館山市におきますところのスポーツ振興法は早急の問題だろうというふうに思うわけでございますけれども、この点についてはしつこいようでございますけれども、再度その所信を伺いたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 福原教育長。

◎教育長（福原 修君） 御質問の中にあっただけでございますけど、18市じゃなくて13市でございますので。

29市のうちの13市が現在協議会を設置しておりますけれども、私たちもその必要性は十分感じておりまして、できるだけスポーツ振興審議会の設置につきましては、前向きの姿勢で考えていきたいと、こう思っております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） 庄司市長は、一番私は市長に就任して目立ったと



いうんですか、あっと言わせたのは、やはり即座にスポーツ課を設置したことだというふうに私は思っております。半澤市長のときに再三私はスポーツ課を独立しろということでもって質問をしたんですけれども、学務体育課で十分だと、独立させる必要はない。そうはいかないと、県下の中でもって保健体育課という、社会体育課という形でもって体育課が学務と一緒にいるのは館山市だけじゃないかということでもって迫ったんですけど、今で十分だという、こういう答弁であった。これは半澤市長は市長なりの文化市長としてのやっぱり信念と未練があったから、そこまではちょっと無理だなと思ったんですけれども、庄司市長はもう一つの看板どおりに、就任と同時に一番先に市の中で手をつけたのは、スポーツ課の設置ということでもってやったわけですから、さすがだなというふうに思ったんですけど、その後においてやはりスポーツ審議会並びに武道館の建設が伴っていかないということについては、非常に残念だと思うわけでございます。それができなくても、文化ホールだって、あれはとてもできないできないというものが、たまたま「さわやかハートちば5か年計画」の中に載ったから、これに食いつかなきゃいけないということでもって市民運動を起こして、市長も先頭に立ったし、我々も先頭に立ってやったところが、棚ぼた的に館山市に決まったと言っていいぐらいで、四、五年前まではまさかああいう文化ホールを館山へ建てるということは、もう思いもよらない。武道館やそのほかと同じように財政事情があって、美術館よりももっと、とてもあんな大規模なものは市としてできませんということであったのが、県がやるということでもってすぐ市民運動を起こしたところが、いろいろ事情はあったけども、とってきたわけでございます。

政治というものはそういうものがあるかと思うわけでございますけれども、こうした点において武道館の建設について市民運動を起こして、館山市ができれば県につくらせればいいわけでございますから、文化ホールだってそうでございますから。そういう運動を起こしてやる、運動をすればその中からおのずから道が開かれてくる。私は鴨川がいい例だと思っておるわけでございます。鴨川は音楽ホールで館山と随分競り合って、その結

果向こうではメッセを持ってくるということでもって大もうけしたわけでございまして、何かしてやられたなという感じがあるわけでございます。あれもやっぱし運動を起こしている中でもってああいうことが生まれてくるんであって、私はやはり武道館、今までの歴史と伝統と、現在も全日本選手権をとった醍醐敏郎だとか、篠巻とか、こういうのがもういるわけでございますから、高木長之助、小谷というのを入れれば、一線級の人たちが中央で活躍しているわけでございますので、こうした中においてやはりそういう人たちの功績にふさわしい武道館つくれば、これは館山市としてはもう最高のもので、これはもう観光の目玉にもなるだろうし、全国からも、柔道、剣道であれば、一声かければ全国大会も開かれるわけでございますけども、私は野球の選手として活躍しておったんですけど、野球では全国大会、声かけてもなかなか全国から、はいというわけでもって集まってくるわけにはいかないなど、教育長さんに怒られちゃいますけれども、柔道、剣道だとこれはもう第一線級のそうそうたる連中がいるわけでございますから、これはもう一声かければ全国大会もすぐやるし、現に若潮会というんですか、高校の全国大会も安房高で開かれているわけでございますから、そういう面において市民運動の先頭に立ち、協力していく御意思がございましてでしょうか、この点についてお伺いしたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 今の段階におきましては、今の辻田議員の積極的な御意見、貴重な御意見として、今の段階では拝聴しておくという段階にさせていただきますと思います。よろしくお願いします。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） 非常にそれではもう不満足でございまして、庄司市長がそういうことを言っていたんじゃ、ちょっとさまにならぬのではないか。庄司市長は、「私が先頭になってやります」ということを言って庄司市長らしくなるんじゃないかと思ひまして、庄司市長が「考えておきます」じゃ、どうも情けないと思って、市会議員も、「はい、そうですか」と言ったんじゃ、市会議員もぼやぼやしているんじゃないかと、ほかの人たちは別と

して私の場合、今までの経緯からいって、そんな感じがするので、私は余りそういう回答でもって、「はい、結構です」というわけにはいかないし、また庄司市長のためにも、やっぱりスポーツ市長として一つの実績ぐらい出して、やっぱり日本一の仕事ぐらいなし遂げるぐらいのことがあって、ちょうどよくぐらいになるんじゃないですか。非常に私は残念に思うわけでございまして、そういう面において私はこの問題はひとつ真剣に取り組んでもらいたいと、このように思っているわけでございまして、時間ございませんので、次に移りたいと思います。

大店法によってジャスコと西口のあれが出るわけでございますけれども、これの売上目標、ジャスコは70億です、第3条によるところの申請目標額が。そして西口のエス・シーの方は約90億ということが、100億近くと言われております。館山の商店街の年間総売り額というものが大体450億ぐらいだということが言われております。小売業の販売額が63年度の調査でいきますと620億でございますから、そのうち飲食だとか、そういったものも全部含まれているわけでございますから、それらを含んでみますと、食品、雑貨、そういうもので商店街の衣料とかそういうものでいきますと、大体400億から450億ぐらいだろうということが言われておるわけでございますから、商店街の中心的なもののウェートからいくと、その2つがその額を超えてしまうと、館山市の商業地域ということは、三者が存立しないという算術的な計算になるわけでございますけれども、この問題についてはどのようにお考えになっておるのかお伺いしたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） ただいまの大型店2店の関係につきましては、3条申請の時点でございまして、12月の結審におきまして、それぞれ1万2,000、1万5,000ということで売り場面積が減っております。したがって、ただいま辻田議員さんからのお話の売上高の予定額というのは、70億、90億というふうなお話で、あれは西口の方は91億というふうな予定だったと思います。この辺も面積が減ってくれば、やはり減ってくるというふうな考え方に立とうかと思いますが、いずれにいたしましても63年の統計で小売業、

これ飲食店、卸等は入っておりませんが、先ほどもお話がございましたように 629億というふうな数字。この中でそのまま3条申請のときの店舗でいきますと、160億というふうな数字になってしまいますが、いずれにせよ現在の商店街の小売状況から見まして、大分やはり大型店への移行、購入の。それから市外へのそういった購入の移行というふうなことがあって、大変苦しい状況にはあろうかと思えます。市といたしましても、きのうも御説明しましたが、それぞれの商店街のやはり活性化としての整備関係に、市としてはやはり補助をして、何とかこれをさらに発展と、こんなふうな考えでおりますが、具体的な共存というものは現在持っておりません。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） 私はこの問題は市長として商業政策として真剣に取り組まなきゃ大変なことになると思いますよ。算術計算でいって、これ商工会議所の幹部の方と話をいたしましたけれども、ジャスコの売り上げについては、床面積が40%ぐらい減になっておりますから、その数字でもって60億ということだから、しかしながらこれはあくまで申請でもって、この60億程度の売り上げということじゃとてもやっていけないのもって、その倍ぐらい売り上げるんじゃないかと、そう思っていますよと、こういうことを言っておりました。そして、現在このジャスコに出店を希望し、また打ち合わせているのは57あるそうでございます。現在11店舗があって、かなりの影響を及ぼしているのに、ジャスコの方としては50店舗を一つの目標にしているということでございまして、それを上回っている。実際に話を詰めていくと、そこまでいくかどうかかわからないとしても、予定ではそうしているということで、商工会議所の責任ある方が言っておりましたので、大変なことだ。同じような数値でもってこのジャスコを上回る西口のエス・シーができますと、これを上回るわけでございますから、売上総数その他からいっても、北条の商店街が全部なくなっちゃいますよ。館山の購買力はふえるとか、人口が10万人ぐらいになればいざ知らず、今の状況で推移している中じゃ、三者両立ということは無理だろうから、西口はだめになるんじゃないですかと

いうことを当事者が言っていましたから、しょうがないですよ、これはと、両立しないんだから。さもなきゃ六軒町通りの商店街が全滅するかどうかでなければ、両者は成り立ちませんよと、これから二、三年先大変なことになるでしょうね。辻田君も市会議員のはしくれだから、少しくらい考えて市長に協力してやったらどうかということを言われましたけど、私は協力を惜しまないところでございまして、その点は簡単な算術計算でいって、デパート群、ジャスコなり西口が出す食品、衣料、日常雑貨、こういうものの総売り上げというのは大体 300 億程度だということが言われておりまして、両方でもって 300 億程度の売り上げを目標にしていれば、ほか何もなくなくなっちゃう。あとは魚屋だとか八百屋だとか、そういうところが残るぐらいでもって、一般の日常雑貨その他全滅になってしまうと、こういう状況はどうお考えになっておるのか。時間ございませんから、答弁は結構でございますけれども、今後これらについてはひとつ慎重に対処していきたいというふうに思いますので、これをもって終わります。

◎議長（福原 勤君） 以上で26番議員辻田 実君の質問を終わります。

次、9番議員脇田安保君。御登壇願います。

（9番議員脇田安保君登壇）

◎9番（脇田安保君） 3月の定例会の審議に先立ちまして、既に通告してあります5点について御質問いたします。

半澤市政の後を受け継ぎ、庄司市政が発足して早いもので1年4カ月、新5カ年計画を足場に、21世紀へ向けて市長の方向性が徐々に鮮明に打ち出される時期に入りました。平成4年度は、昨年のバブル経済の破綻により、社会情勢、経済情勢も極めて厳しい中、今回平成4年度の予算が提出されました。私は今回の質問に先立ちまして、庄司市長の独創性や創造性がどのように市政に反映してきているか。また、それが市民の立場から見てどうなるのかいろいろ検討もし、研究も重ねてきました。そこで、今回の議会での私の質問は、特に市民の立場から重要な課題について種々御質問申し上げたいと思います。

まず第1点目の市民のための市行政の推進であります。市役所とは読ん

で字のごとく、市民のお役に立つ所であります。市民に信頼される市民の日常生活にはなくてはならないもの、それが市役所のあり方だと思います。少なくとも市民の皆さんが市役所に対して、暗い、冷たい、威張っている、不親切、怠けているといったイメージを受けないようにしていかなければならないと考えます。

先般、私は出雲市長の岩國哲人氏の講演を聞く機会がありまして、大変に感銘を受けたものです。岩國哲人氏は、バージニア大学客員教授であり、またメリルリンチの副社長を務めてきた人で、出身は企業人です。岩國市長の講演の中の一部を引用しますと、このように講演しています。

「私は市長になって職員に最初に話したことは、行政は最大のサービス産業であるということです。世の中にはいろいろなサービス業があるが、市役所は最大のサービス産業である。その使命を意識することが大切です。出雲市の中で一番サービスのよい会社はどこですかと聞かれたら、市民がそれは出雲市役所ですよと言ってくれるような市役所にしてほしい」と職員に呼びかけた岩國氏は話しておりました。

私はこの言葉は大変含蓄のある言葉であると思います。この市役所は最大のサービス産業であるという言い方は、いかにも企業出身の岩國氏らしい表現ですが、行政の視点を市民側から見ているものであると考えます。行政を市民側の目から見て初めて行政サービスの何たるかが見えてくるのではないのでしょうか。行政の視点を上の方から市民を見下している限り、サービスの真の姿は見えてこないと思います。

さて、まず私はこうした行政サービスの根本的な視点をお伺いしたいのです。市長がどのような視点から行政を見ているかということは、行政には大きな影響力を持つものです。大変重要なことだと思います。そこで、出雲市長の例をとりましたが、行政は最大のサービス産業であるという視点について、庄司市長はどのような所感をお持ちになるのかお聞かせ願いたいと思います。これが第1点目です。

次の第2点は、休日に証明書等の発行はできないかという質問です。これは申すまでもなく、行政サービスとして大変身近な問題であります。昼間働

いている共働き夫婦は、証明書1通もらうためにも大変な苦勞が要るものです。まして近い将来週休2日制になった場合、市民のニーズに応えるためにサービスの窓口を置くことは自然の形で考えられるわけです。現在市職員が休日には交代で2名ずつ出勤して休日の火葬場等の受け付けを行っている聞いています。私は将来の週休2日制を見通して何らかのサービス窓口の開設のための準備を進めていった方がよいのではないかと考えます。この点いかがでしょうか。

次に、OA機器の使用についてであります。経済の発展とともに事務の合理化、スピード化が要求され、地方公共団体も汎用のコンピューターからパソコン、ワープロに至るまでOA機器は多様な形で日常の事務処理に活用されています。また、情報も多様化しております今日、手書きの時代からOA機器の時代へと変化し、それに伴い事務の繁雑も解消され、より一層の合理化も進んでいることと思います。今現在コンピューターを活用しての事務処理はどの分野まで進んでいますか。

当市も早くからOA化に力を入れてきたと記憶しておりますが、次期のシステム計画についてはございますか。

また、OA機器の導入によってどう合理化され、職員の仕事の効率や市民サービスの点でどのような効果が上がっておりますか、お伺いします。

また、OA機器の発達により複雑化している行政事務処理に、ボールペンがわりに個人のワープロが多く使用されているように見受けられますが、市民のプライバシーの漏えいは心配がないのか、この点もあわせて御質問いたします。

次に、国民健康カードの実施についてどう考えるかという質問であります。まず私の考えている国民健康カードとはどのようなものを御説明申し上げたいと思います。この国民健康カードは、テレホンカードぐらいの小さなカードに過去の病歴や検査結果、服用薬の種類などを記録させて治療に利用していくものです。生涯にわたって健康情報を管理できるものです。また、病気やけがで治療を受けたときには、新しい検査結果と過去のデータを医師の手元にある表示装置で比較。心配ならグラフにして画面に表示し、医師が

診断に利用したり、患者への説明に使うことができる。このため1人の患者が同じ病気を抱えたまま転動や引っ越しなどで転院しても、再検査を受ける必要はない。2つ以上の病院を抱え、複数の病院に通院している患者は、投薬のダブリや過剰投与が避けられる。出張先や旅先で病院にかかっても、ふだんの血圧状態、アレルギー有無などが入力されたデータに基づいて、初めて診断を受ける医師からも適切な治療を受けられる。特に交通事故などで治療に一刻を争う場面では、カルテの取り寄せなど治療以外で手間取る時間を大幅にカットできるため、救命率の向上が期待できるのです。

また、東京医科歯科大学の椎名教授のレポートによると、現在のカルテでは患者の10年分の血圧値が診察ごとに記録されていても、血圧値の経過を医師が把握するのには困難だという。また、カルテに記入されている情報、例えば薬剤などを経時的に見るとなると、半日仕事になるということです。

このカードの開発は現在も進んでいるが、本格的に普及した場合、メリットはさらにふえるのです。レントゲンの投影もその一つであります。例えばレントゲン写真で胃にがんの疑いが持たれるような影が見つかったとする。医師は判断に迷うが、その場合一番知りたいのは、過去に投影した患者の胃のレントゲン写真である。これがカードに入力されていれば、医師はその場でコンピューターの画面に再現できる。画面を見比べながら、1、影が従来も確認されていた。2、確認されていた場合も影の大きさには変化はないかなどを手短に判断できるのです。一方、これまで主に看護婦が携わってきたカルテの整理や取り寄せは不要になるため、看護婦の事務負担が緩和され、深刻なマンパワー不足にあえいでいる医療機関にとってもメリットは多いと思います。

さて、このカードを全国どこの病院でもカルテとして診断に利用できるとしたら、これは画期的な医療システムではないかと思うものです。そして、このシステムが今実用化の方向であらゆる機関で検討が進められているという情報を耳にします。このような将来の推移を踏まえて、健康カードの作成を施策の一環として取り組まれたらいかかと思いますが、どうでしょうか。

次に、農地に建造物を建てる許可についての質問であります。この問題に



については、農地に建物を建てる場合のさまざまな法の規制があると思います。まず、農地法第4条1項は、農地の転用の制限がうたわれておりますが、これによると、農地を農地以外のものに使用する場合は、都道府県知事または農林水産大臣の許可を受けなければならないというふうに明記されています。つまり同一事業の目的に供するため2ヘクタールを超える農地を農地以外のものにする場合には、都道府県知事を経由して農林水産大臣の許可を得ること。また、その他の場合は農業委員会を経由して都道府県知事の許可を得ることとされているのです。また、この法の適用の除外としては、土地収用法等の法律によって収用し、または使用した農地を、収用または使用に係る目的に供する場合には除外されるのです。また、市街化区域内にある農地をあらかじめ農業委員会に届け出て、農地以外のものにする場合も除外されます。

さて、私の質問の本題に入りますが、市内の国道128号線沿いにある農地に関して実はお聞きしたいんです。この土地は国道128号線の鴨川と千倉方面の地点にあるものですが、現在パチンコ店の看板が建っております。聞くとところによりますと、この土地はパチンコ店の所有だそうですが、ここの土地は農地であり、農地を他の目的に使用する際は、農業委員会の許可が必要だというふうに聞いております。また、広告塔は建築基準法による建築確認申請が必要だろうと思います。この点どのようになっておりますか。この土地は先ほど私が申し上げました法のさまざまな必要な許可を得た土地なのかどうか、その点を御答弁をお願いします。

次に、インダストリアルパークの進捗状況についてですが、市長の施政方針では、調和のとれた新しいまちづくりを目指して、館山インダストリアルパーク計画などの推進、関連用地取得を進め、早期実現に向かって積極的に取り組んでまいりますと言われておりますが、現在いろいろな角度から問題が提起されています。そこで、工業団地の進入路についてですが、地元への説明では、1案は立体交差で国道、JRをまたぐ進入路の計画と、第2案は踏切を拡幅して平面交差で進入路をつくる計画が説明されましたが、今現在どちらの案で進入路の検討がされているのか。また、進入路については県道としてつくるのか、それとも市道として事業を進めるのかという点であります。

この件につきましては、御承知のように自然を生かした工業団地をつくり、若者の定住化と地域産業の発展を図ろうとする意義ある計画でありますので、先ほど申し上げました点につきぜひ御答弁をいただきたいと思います。

以上、御質問ございました。御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの脇田議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1の市行政について、その小さな第1点目、行政サービスの視点についての御質問でございますが、私は市長就任以来、市民生活の向上を願い、市民のための開かれた市政、これを基本的政治姿勢として市政を運営してまいりました。御意見の中にたびたび出てまいりました行政は最大のサービス産業である、この言葉には、市民生活の向上、市民本位の行政運営という基本的な行政の役割についての考え方がその根底にあると考えます。そういう意味から、この点につきましては、私も認識を一にするものでございます。

次に、小さな第2点目、休日の証明書発行について、この御質問でございますが、将来週休2日制に移行した場合、市民のニーズに応えるための窓口サービスにつきましては、低下させないように配慮してまいりたいと考えております。なお、年度初めの転出入の多い時期には、土曜閉庁日においても、市民サービスとして窓口は開設いたします。

次に、大きな第2、OA機器の使用についての御質問でございますが、まず現状の電算処理及び今後につきましては、高度化、多様化する行政需要に対し、汎用コンピューターによる住民記録、市税、財務など大量かつ定型業務の一括処理、またパーソナルコンピューター、ワードプロセッサ等いわゆるOA機器による各課個別業務の処理など全庁的なOA化の推進を図り、事務の簡素、効率化に努めているところでございます。今後とも新規事業の開発及び現行業務の改善など機器の有効な活用を進めてまいりたいと考えております。

次に、ワードプロセッサの利用についてでございますが、昭和58年度に初めて導入して以来、年次的に増設を進め、現在20台利用しております。今後業務量を考慮するとともに、効率的な利用といったことも含めまして対応してまいりたいと考えております。

次に、大きな第3、国民健康カードの実施についての御質問でございますが、検診データにつきましては、現在も医師会病院及び市で個人ごとに管理し、診断、訪問指導等の資料として活用しております。国におきましては、平成4年度からの第3次老人保健事業計画の中で、個人データのカード化等が研究課題として盛り込まれております。市といたしましては、カードによる健康管理は、将来的に必要と考えておりますが、現在はデータの入力、出力等の課題もございますので、国の方針を見きわめながら対応してまいりたいと考えております。

次に、大きな第4、農地に建造物を建てる許可についての御質問でございますが、農地の問題につきましては、農業委員会会長が答弁いたします。

次に、御指摘の広告塔につきましては、建築基準法による確認申請が必要でございます。

次に、大きな第5、館山インダストリアルパーク計画の進捗状況についての御質問でございますが、千葉県企業庁が、現在開会されております県議会におきまして、事業化のための条例改正案及び関係予算案を計上しております。平成4年度からの事業化に向けて準備を進めていると伺っております。館山市といたしましては、企業庁との連携を保ちながら、平成4年度から計画区域内の用地の取得等に入る予定でございます。

御質問の進入道路につきましては、現在地元及びJR千葉支社、企業庁、公安委員会などと協議中でございますが、市道として整備する方向でルートを検討しているところでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勲君） 斉藤農業委員会会長。

（農業委員会会長斉藤 明君登壇）

◎農業委員会会長（斉藤 明君） 大きな4、農地に建造物を建てる許可に

についての御質問でございますが、農地を農地以外に使用する場合は、農地法の許可が必要でございます。御指摘の看板の件につきましては、位置、転用規模等が耕作及び農作物に支障のないものと考え、許容範囲であるとの判断をいたしました次第でございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） ただいま市長から答弁いろいろありましたけども、再質問は住民が非常に関心を持っている農業問題から先に — 農地の建築物から — 許可のことについて先に質問をしたいと思います。地元の多くの人のびとは、このことについては、私の耳に入ってくるんですけども、私の聞くところによりますと、昨年この広告塔を建てたのはたしか12月ぐらいだと思ったんですけども、建て始めたのが。それで、聞くところによりますと、その広告塔を建てる業者が確認申請を出した。そうしましたならば、番地違いのために役所から工事の中止がされたということを私ちょっと耳にしたんですけども、この点は確かにそういうことがあったのかどうか、その点を伺いたいと思いますけども。

それと、もう一点は、確認申請は必要ということでもありますから、確認申請するにあのような広告塔、建造物を建てる場合、地目は要するに何でも、どのような地目でも、例えば田んぼだとか、あるいは畑だとか、どのような地目でもああいうような工作物は建てられるのか、そのまず2点を伺います。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 御指摘の前段については、番地の違いが初めございました。

それから、後段の地目についてでございますけども、建築確認については、地目は田んぼであろうと宅地であろうと沼地であろうと、それは関係ないことでございます。技術指導の基準でございますので、どのような地目でも建てられます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） 建てられるということになりますと、例えば農地でもどこでも、要するに建築確認ということは、極端なことで申しわけないんですけども、国有地であろうとどこであろうと、要するに地目が何であろうと、建築物は建てられると、そういうふうに理解してよろしいですか。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） まず、屋外広告物については、館山市では禁止地域というのがあります。これには絶対建てられません。そのほか、まず建築確認でございますけども、建築確認とは建築物の技術的基準を規制した法令でございます。ですから、技術用の具体的な制限規定でございます。それから、建築確認は他の法令に基づく知事等の許可その他に影響を及ぼさない。3点目に、他の法令による許可を受けたかどうかは確認事項に含まないということでございます。極端なことを言いますと、Aさんの土地にBさんが建築確認をして建てても、これは建築確認上は問題はないことでございます。ですから、その問題とすれば、今度AとBとの民事の問題になろうかと思えます。ただし、先ほど言いましたとおり、国有地はどうかということもありますけれども、これについては、国有地からの手続をしなきゃならないということですけども、これについても他の法令をクリアしなさいということでございます。ですから、建築確認上はそれを調査はいたしますけれども、原則的には調査をしなくても建築確認は通るということでございます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） 今の答弁ですと、国有地という例を出しましたんですけども、国有地のみは審査するんだ。そのほかに対しては今の御答弁ですと、調査するけども、地目は何であろうと建てられるんだというふうに理解してよろしいかと思うわけです。— もう一度ちょっと、理解できなかったんですけども。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 国有地でも建てられるということですけども、

これは国有地を借りる場合には、その建築確認を出す人がそれをクリアしなければいけないということでございます。

◎議長（福原 勤君） 脇田安寿君。

◎9番（脇田安寿君） そうしますと、例えば国有地はそういうことでありますけれども、農地でも要するに、例えば田んぼ、畑ありますけれども、その場合でも建てられる——農業委員会のこれは許可がなければ建てられないということになるわけですね。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 先ほども申しましたとおり、他の法令による許可を受けたかどうかは確認事項に含まないということでございますから、これは建築確認上は正しいと思います。ただし、それは建築確認上、その広告物を建てようとする人は、他の法令をきちっとしなければいけないという義務がございます。そういったことで、その前に当然他の法令をクリアしなければ、その人は建てられないということですが、確認上はそこまで確認をしませんということでございます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 脇田安寿君。

◎9番（脇田安寿君） わかりました。要するに今建築確認の方では、農業委員会が許可したかしないかという問題は別に審査する必要はないと、確認しないでいいんだということでもありますね。ですから、そこまで関知しないでいいんだと、極端に言えば、わかりました。

そうしますと、先ほど御答弁の中で、農作物に害がないからいいんだということでありましたけれども、あのような構築物は農作物に日が陰らないで、農業に害にならなければいいということでありましたけれども、これは条例か何かこのように規定か何か決まっているのか、その点まず伺っておきたいと思っております。

◎議長（福原 勤君） 齊藤農業委員会会長。

◎農業委員会会長（齊藤 明君） お答えを申し上げます。

条例とか何とかということで決まっております。ただ、今回のこの問

題につきましては、脇田議員、御当地の先生でございます。よくその辺については御承知のことだろうと思いますので、ごしんしゃく願いたいと思うわけですが、全く周りには一名は農地でございますけれども、花木等が植えられ、この土地におきましてソテツ、あるいはヤシ等が育成されるということで許可がおろされておる土地でございます。あそこで野菜等はいくらもありませんので、現在の状況におきまして、農作物をやっておるというような状況ではございませんので、そのようなことでひとつ御理解をいただければと思うわけでございます。

特にこの土地について条例等があるのかということになりますと、これは御承知のとおり 1.5 平米ぐらい、3 尺四方ぐらいのものでございますし、円筒が建っただけでございます。片方は国道、県道にまたがっておるところでございますので、そういう面からおきまして、上層部、本庁の方と問い合わせ、安房支庁とも問い合わせながら、そのくらいのことならばいいじゃないのか。ただ、地元でもって何か弊害があるようなことでは困るけれども、その辺は話し合ってくださいよという指導も受けながら、一応許容範囲ということで黙認したわけでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9 番（脇田安保君） そうしますと、広告塔に関しては、県の指導を受けて行ったんだということでもありますけども、あその場所は私の記憶 — 私も地元ですから、土地基盤整備を行ったところだと私は記憶しているんですけども、基盤整備を行ったところは何年かは他の目的には転用してはならないというような条文があるかと思うんですけども、他の目的 — 農地ですから、畑あるいは田んぼではいいんですけども、基盤整備はあその土地は何年まで他の目的に使用できないのか伺います。

◎議長（福原 勤君） 齊藤農業委員会会長。

◎農業委員会会長（齊藤 明君） お答えいたします。

御承知のとおりほ場整備した地域は、大きなほ場整備した地域、安房郡、館山の中で、東部と西部ということで大きく分けられるものでございますが、

御指摘のあの場所につきましては、東部地域ということでございます。これはは場整備事業が完了後翌年から8年間、これが土地改良法に基づく規制の条件でございます。8年間。これは工事完了届が提出をされてからということでございます。ちなみにこの土地については、昭和60年に完了届が出ておるわけでございます。したがって、土地改良法の規制が外されるのが平成6年でございます。詳しく言いますと、平成6年の5月23日以降になればということでございます。あと2年ぐらいでございますけれども、そういうことでございます。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） あと2年ということですけども、私の見た限りでは、農地というような感じを受けないんです。ということは、入り口は国道と県道の入り口が2カ所ありまして、砂利が敷いてありまして、車がとまっているわけです。ということは、私の理解では、他の目的に利用しているんじゃないかというふうにとれるんですけども、でも心配ですから、地目が何なのか謄本をとってみましましたら、ここはまだ——ことしの2月21日現在ですが、地目は田んぼになっているわけですけども、その点はどのように理解したらよろしいですか。

◎議長（福原 勤君） 齊藤農業委員会会長。

◎農業委員会会長（齊藤 明君） この土地については、地目が田んぼということになっておるということでございますが、この土地を取得したのが、平成3年の8月20日に許可がおりておるわけでございます。同時に埋め立ての届け出がありまして、地目が畑ということで変えたいという届け出があったわけでございますので、現在は畑に直っておると思うわけでございますが、まだいまだに直っていないということになりますと、まだ私の方からの——届け出でございますので、その許可を持っていないかと思うわけでございます。以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） 昨年8月からことしの2月までまだ変わっていないと、届け出していないということですけども、田んぼから埋めるときに畑



にしたんだという答弁であります。畑で花木を植えるという御答弁ですけども、ちょっと私の理解では花木というふうにとりようがないんです。大体、普通花木でしたらば、車はとめていないかなと理解するんですけども、今現在そのような状況になっているということは、どのように理解したらよろしいですか。

◎議長（福原 勤君） 齊藤農業委員会会長。

◎農業委員会会長（齊藤 明君） 脇田先生、地元でもってよく御存じのこととでございます。私の方も答弁に対して大変苦しいわけでございますけれども、正直言って私の方も追跡調査はできないということが現状の労力でございます。職員さえ多くおられれば、許可され、あるいは届け出がされたものについては、追跡調査もされるわけでございますけれども、現状職員あるいは委員さんともにおられるわけでございますけれども、追跡調査等あるいは事務処理等については職員さんをお願いをしてあるわけでございます。その職員も6人でございますので、許可されたものの追跡あるいは届け出によりましての追跡等ができない状態でございます。しかし、あの土地については、私もたまに通りますので、砂利が敷き詰められておるわけでございますけれども、これは申請の目的は畑に届け出て、ソテツとヤシを育成するということとでございます。これについては絶対に他の目的に使ってはいけませんよということが再三にわたって相手方の方に伝えてあることは事実でございます。

なお、現在そのような状況で使われていないということについては、これは各所にそういう追跡調査ができない現状でございますので、あそこだけでなく、各所にあるわけでございますので、この点につきましても御理解願いたいと思います。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） 各所ということですけども、私も地元でこのようなことは本当に心苦しいんですが、国道と道路との本当にもう目のつくというんですか、多くの人の目にとまるところでありまして、私も本当にいろんな方からいろんなことを言われるものですから、この辺をきちっとしておかな

いとならないかなと。それならばきちっと許可をとるような方向で指導はできないのですか。

◎議長（福原 勤君） 斉藤農業委員会会長。

◎農業委員会会長（斉藤 明君） 先ほどお答えいたしましたとおり、あの土地は土地改良法に基づいての規制をされておる土地でございます。したがって、まだ残されておる土地改良法の枠があるわけでございます。まずそれらがクリアできなければ、ほかの目的に使っていいという許可は出ませんので、申し添えます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） あと2年間このままの状態で駐車場として使うのか、それとも地主の方に強力に注意を促して善処していただくのか。

市長さん、先ほど委員長さん、職員が足りないんだということでありますけども、その点どのように感じておりますか。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 非常に具体的な問題についてのお話し合いでございます。今のお話し合いの中に出たところでは、この当地の具体的な問題と、そのほかにもまだあるというような意見が出ていましたけれども、こういう問題につきましては、農業委員会と十分協議しながら対策を進めていきたいと、こう考えます。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） その問題だけやるわけにいかないのですが、本当にこういう問題が随所にあるということは、ちょっと疑問なんです。そのような理解ではちょっと私もこのまま、はい、そうですかと納得はできないんですけども、どのようにしたらいいかなと思うんです。

地主に注意したということですけども、地主に注意して、地主さんはどういうふうな回答をされているのか、その点を伺いたいんです。

◎議長（福原 勤君） 斉藤農業委員会会長。

◎農業委員会会長（斉藤 明君） これは昨年でしたか、無断転用されてお

る土地については一斉に文書でもって勧告をしてあるわけでございます。ただし、それらの答えはとっておりません。と申しますのは、早く当初の目的のように使ってほしいということでございます。違反転用については、それを指摘するわけでございますので、早い時点で正式に直すようにというような指導でございますので、答えはしたがってとっておりませんけれども、近々のうちに再度悪質と見られるような箇所においては催告をしたいと、こう考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） 再度注意を促すということでもありますから、この問題はいろいろ根が深いかなと思います。また、場所を変えて議論したいと思いますので、この質問は今回はこれで打ち切ります。

次に、証明書の発行についてですけれども、休日の証明書なんですけど、これは千葉県内で2市、八日市場市と銚子市ですか、この2市が休日の証明書等の発行を実施しているということでもあります。それと、いろいろこれコンピューターとの関連がありまして、パーソナルコンピューターの関連があるんですけれども、技術的には端末機だけでそういうものが発行できるのかどうか、その点を伺っておきたいんですけれども。

◎議長（福原 勤君） 総務部長。

◎総務部長（二通英雄君） 一般的に技術的には可能でございますけれども、館山市の現在の状況では不可能でございます。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） ここに大阪府の中の守口市というんですか、ここでは市単独でオフィスコンピューターの改良をして、端末機だけで証明書の発行ができる。ですから、技術者が休日の日に出てこなくても、窓口だけでできるという、実際、現在この9月から行うということを私は読んだんですけれども、ですから実際的に技術的にできるということは、やろうとすればできるというふうに理解してよろしいですか。

◎議長（福原 勤君） 総務部長。

◎総務部長（二通英雄君） 端末機を新規に購入してシステムを開発すれば可能だと、こういうことでございます。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） わかりました。

それに関連しまして、先ほどのOA機器の質問ですけれども、次に移ります。行政事務にいろいろ書類やいろんな業務が多様なためにボールペンがわりにワープロが使われておるわけですが、本来は私物を持ち込んで事務処理をするというのはちょっと好ましくないかなと思うんです。その中で私はワープロそのものは、本体は問題ないと思いますけれども、フロッピーディスク、要するに記憶装置ですね、それがございます。そのフロッピーディスクの、いろいろ公文書とか私文書、いろいろなものが打ち込まれているわけです。それが個人個人機種が違いますから、個人の手元にあるわけですね。そうしますと、守秘義務とか個人の手元にあるということに対してちょっと問題じゃないかと思うんですけれども、その点はどうか。

◎議長（福原 勤君） 総務部長。

◎総務部長（二通英雄君） 現在個人の機器について持ち込みはされておりますけれども、その文書の取り扱いについては、現状においては適正な管理がなされているというふうに考えております。今後公用については、フロッピーの区別等いたしまして、その利用についてなお一層適切な運用を図りたいと、こういうように思っています。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） ちょっと今そこら辺わからなかったんですが、フロッピーは今現在は個人が取得して――機種が違いますから個人個人が取得して、それで市に置いてあるなり、自宅に持ち帰るなりと思いますが、個人のものですから。ですから、現在は個人個人が取得しているものに役所のいろいろな文書等が登録、要するに打ち込まれているわけですね。それを個人が持ち歩いていいものかどうかということですね。

◎議長（福原 勤君） 総務部長。

◎総務部長（二通英雄君） ワープロについて個人のものが持ち込まれてお

るということございまして、フロッピーについては役所の中で管理されていると、こういうふうに理解していただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 脇田安寿君。

◎9番（脇田安寿君） 機種別ですから、役所で私有のものを使っているというふうに理解していいですか。

◎議長（福原 勤君） 総務部長。

◎総務部長（二通英雄君） 現在ワープロ20機、市有のものがございすけれども、そのほかに個人所有のものが入っているということでございます。

◎議長（福原 勤君） 脇田安寿君。

◎9番（脇田安寿君） 私の説明が悪いのかな。機種は20台市の公用のものがあるんですけども、個人のワープロが何台かわかりませんが、使用されておるわけです。ですから、それに使っているフロッピーディスクがあるわけです。これは機種が違ふからいろんなフロッピーでないと合わないわけです。それで、公用のやつでしたら機種は一つだから、どこへ持っていても合うんです。ですけども、個人用のワープロの場合には合わないわけです、全部、フロッピーが。ですから、個人のワープロのフロッピーは市有となっているのか、個人用になっているのか、個人で買っているのか、その辺聞いているわけです。

◎議長（福原 勤君） 総務部長。

◎総務部長（二通英雄君） ワープロも個人で持っているのがありまして、フロッピーにつきましても公用のものと私用のものがありますけれども、公用の入っている文書については市の方で管理されていると、こういうふうに御理解いただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 脇田安寿君。

◎9番（脇田安寿君） 要するに個人のフロッピーに対しては市は管理していないというふうに理解するんですけども。市の20台の公用のワープロのフロッピーは市が管理しています。それで、個人が使用しているワープロに対してのフロッピーの管理は個人がしているという理解でいいですね。

◎議長（福原 勤君） 総務部長。

◎総務部長（二通英雄君） 公用の入っているフロッピーについては、庁内だけというふうに御理解いただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 脇田安彦君。

◎9番（脇田安彦君） わからないかな。そうじゃなくて、私が聞いているのは、市有は市でも、市のフロッピーだからいいんですけども、個人のワープロに使っているフロッピーはだれが管理しているかということなんですよ。

◎議長（福原 勤君） 総務部長。

◎総務部長（二通英雄君） 職員が今現在管理しておりますけども、それは持ち出すということじゃなくて、課の中へ置いてあると、こういうふうに御理解いただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 脇田安彦君。

◎9番（脇田安彦君） 課の中にある。けども、個人のものなわけですよ。厳密にこういうことは役所の職員ですからないんですけども、個人のものですから、これが要するに機種は違うんですけども、市でそういうフロッピーを管理していかなきゃならないんじゃないかというわけです。だから、その文書は公文書も私文書もいろんな面で使われているんじゃないかと、こういうことを私は言いたいんですけど、時間ですからまた。

◎議長（福原 勤君） 以上で9番議員脇田安彦君の質問を終わります。

午前の会議はこれにて休憩とし、午後1時再開といたします。

午前11時50分 休憩

午後 1時08分 再開

◎議長（福原 勤君） 午後の出席議員数24名、休憩前に引き続き会議を開きます。

#### 議長の報告

◎議長（福原 勤君） この際、申し上げます。

議案書及び議案説明資料中一部印刷の誤りがあり、訂正されたいとの申し出がありました。お手元に配付の正誤表により訂正願います。

◎議長（福原 勤君） 次、5番議員宮沢治海君。御登壇願います。

（5番議員宮沢治海君登壇）

◎5番（宮沢治海君） 私は、今次定例会に提案されました43件の議案の審議に先立ち、通告いたしました3件につき質問いたします。

第1点目は、館山市計画道路についてであります。去る1月22日、市民の念願でありました127号館山バイパス5.2キロメートルの供用が開始されました。また、2月22日には1,500メートルという長さを持つ鋸南トンネルも完成したということです。平成7年度の東京湾横断道路の完成とあわせるべく、館山への幹線道路の工事も進んでおるとのことです。しかしながら、現実は大変厳しいものがあります。先日、木更津まで車で出かけましたが、館山より1時間30分ほどかかりました。帰りは君津より房総スカイライン、鴨川有料道路を利用しましたところ、40分ほどにて鴨川に着きました。県都より館山への遠さを改めて認識せざるを得ません。そのような折、3月4日に関係市町村長、諸機関の長とともに県へ道路完成へのさらなる努力を要請したとのことですが、まことに時宜を得たものであり、今後も行政、住民一体となり、道路工事完成への運動をさらに積極的に進めねばならないと痛感するものです。

さて、幹線道路の進捗とともに館山市の主要道路、生活道路の整備も急がねばならないと考えます。かつては市内の道路は狭く、舗装も十分でなく、側溝もふたがなく、危険であるとの声が多かったと記憶しております。しかし、行政の努力によりかなり改善されたと感じておりますが、しかしながら今後の館山市の発展、観光都市、リゾート都市として、また市民の車社会の安全性、利便性を考えた場合、まだまだ不十分であります。

そこで、お尋ねいたします。館山市には館山市の将来像、まちづくり、アメニティー、また車社会の利便性、機能性を考え、都市計画法に基づき都市計画決定がなされた11の計画道路があります。この計画道路は昭和44年に計画決定がなされたと聞いておりますが、その計画道路の選定に当たりましての位置づけ、路線全体の基本設計について御趣旨をお聞かせください。

次に、平成3年度までの進捗状況をお聞かせください。

さらに、平成4年度の計画、今後の整備計画についてお聞かせくださるようお願い申し上げます。

次に、下水道計画についてお尋ねいたします。都市の文化成熟度を見る場合、下水道の普及率も大きな要因の一つであると言われています。他都市との比較数字においても、この数字の好位置に位置することは、市民の誇りとするものです。また、具体的には市民の憩いの場であり、館山市をイメージする鏡ヶ浦湾の浄化のためにも、今後館山市が観光都市、リゾート都市として発展していくためにも、そして市民が真に文化的で快適な生活を実感するにも、道路と同じく多大な費用と年月を要しますが、公共下水道の整備は数多くの市民の要望するところであります。去る2月、公共下水道計画の縦覧もなされ、都市計画決定がなされ、最重要課題でありました終末処理場建設地の確保もあり、整備事業はいよいよ本格的に始動するものと思われませんが、今後のスケジュールについてお聞かせください。

さて、行政、とりわけ下水道室の御努力により、館山市広報「下水道QアンドA」、また地域との懇談会等により、下水道の必要性が市民の間に啓蒙普及がなされ、結果として公共下水道完成への期待が増している今日です。また、予算面におきましても、国のインフラ整備の施策により、もちろん館山市も大きな予算を投下しますが、国庫補助等により現在の公共事業計画が進行していると考えます。部分供用開始は平成11年と聞いておりますが、第1期整備地区100ヘクタールに住んでいる人びとは下水道の恩恵に浴するものです。下水道の価値は金銭では評価し切れないものがあると思います。しかしながら、受益者は受益者負担金として納める必要があるわけですが、受益者負担金とはどのようなものであるかお尋ねします。お聞かせください。

なお、整備計画に対する建設財源の中でどのくらいの位置を占めるものであろうか。

また、今回の場合、下水排除方式において分流式が採用されたが、そのことは受益者負担金にもどのような影響を及ぼしたんであろうかお聞かせください。

次に、3点目といたしまして、文部省の社会の変化に対応した新しい学校



運営等に関する調査研究協力者会議の審議結果に基づき、今年の9月12日土曜日より実施されます月1回第2土曜日を休みとする学校週5日制についてお尋ねいたします。これは明治以来続いており、私どもの生活のうちに100%根づいております学校週6日制より5日制への移行の第1段階であると聞いております。その趣旨といたしまして、国際的労働条件の変化、人事院の要請等々、家庭、地域へ子供を帰していくこととあります。

私自身考えます社会変化とは、現在日本の置かれている経済的な豊かさ、国際化、情報化であり、とりわけ旧ソ連、アメリカの二大大国の冷戦下のもとにおける世界体制も崩壊し、新たな世界の平和と安定の秩序の構築のために、世界のGNP15%を占めるまでに至った日本の国際政治、経済協力、人的貢献等さまざまな分野でリーダーシップを問われるという大きな変化であろうと考えます。この資源に貧弱な国が国際社会の中で果たすべき役割が増大してきた大きな要因の一つに、日本人の持つ勤勉性と教育の高水準があると考えます。日本国における義務教育、教育の機会均等等は評価に値するものと考えます。

しかしながら、その反面、日本人の青少年の一生は、18歳における1日で決まってしまうという学歴社会、偏差値万能の出現も許しました。知育、徳育、体育と申しますか、知、情、意のバランスのとれた子供たちの成長が望まれる中に、知力の量が学力のすべてであるとの認識のもとに進んできたことも事実であると考えます。結果として、子供たちの生活実態を見ると、ゆとりがなく、生活体験や社会体験が不足し、人間関係や社会性、たくましい体力や奉仕の精神、基本的生活慣習が十分身につけていないという事実となってあらわれてきたと言われています。

そのような中における週5日制が実行されようとしているわけですが、もちろんこれがすべての、100%の解決方法であるということは、求めることは無理ということは承知しております。しかしながら、現実において大きな問題の学歴社会、偏差値万能等が大手を振っている中において、また5日制実施による教育水準の維持、児童の学力負担の増大、家庭や地域社会における幼児、児童、生徒の生活環境や活動に対して、十分な対応ができ

るかという点において不安があることも事実であります。このような状況において、5日制実行が人格形成にプラスになる、今までにない面を育てることができるだろうという積極的な取り組み方もありますが、子供の幸せにとって週5日制がどのようなものであるか、家庭、地域に対してどのようなものであるかの高邁なる御説明をお願いいたしたいと思います。

次に、実施に当たりましては、文部省より68校の調査研究協力校が指定され、試行を行ったようですが、協力校は沖縄、東京を初め全国9県にわたり、その県内において都市部、農村漁村部、幼、中、高、特殊と指定がなされ、地域、学校の特殊性の上にそれぞれが独自のカリキュラムのもとに試行がなされたようですが、今後9月に向けまして教育の先進地としての館山市教育委員会はどのように取り組みをなされていくかお聞かせください。

以上、3件について質問をさせていただきましたが、御答弁により再質問をさせていただきます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの宮沢議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1、都市計画道路についての小さな第1点目、都市計画道路の進捗状況についての御質問でございますが、都市計画道路の計画に当たりましては、用途地域等の土地利用、将来の都市構造及び道路密度等を総合的に勘案し、計画決定されております。また、現在の整備状況につきましては、都市計画道路12路線の総計画延長30.4キロメートルのうち、川名真倉線の国道127号館山バイパス部分及び八幡高井線など約10.5キロメートルが整備されております。整備率は約35％となっております。

次に、小さな第2点目の今後の見通しについての御質問でございますが、東関東自動車道館山線や主要地方道館山白浜線バイパスなどの国、県等の道路整備計画を勘案いたしまして、今後一層の増加が予想される観光、物流等の通過交通の円満な処理並びに市街地での交通渋滞の解消等将来の交通需要に的確に対応し、機能的な都市活動が確保されるよう、関係者の御理解と御協力を得ながら計画的に整備してまいりたいと考えております。

次に、大きな第2の下水道事業の見通しについての御質問でございますが、全体処理計画面積 1,197ヘクタールのうち、第1期整備事業面積98ヘクタールにつきましては、平成4年度に実施設計を行い、平成5年度から工事に着手し、平成11年度末の供用開始を目指しております。

次に、受益者負担金の御質問でございますが、受益者負担金につきましては、都市計画法第75条で、都市計画事業により利益を受ける者に対して、事業に要する費用の一部を負担させることができるという規定がございます。

なお、受益者負担金の問題につきましては、本市の使用開始までには時間もございますので、今後住民との合意形成を図りながら、国、県の指導及び他市町村の動向等をも踏まえまして検討してまいりたいと考えております。

大きな第3、学校5日制にかかわります基本的な考え方、取り組み等につきましては、教育長より答弁いたします。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 福原教育長。

（教育長福原 修君登壇）

◎教育長（福原 修君） 大きな3、学校5日制の問題につきまして、小さな1、学校週5日制の基本的な考え方についての御質問でございますが、学校週5日制は、社会の変化に対応してこれからの時代に生きる子供の望ましい人間形成を図る観点に立って、学校、家庭及び地域社会の教育全体のあり方を見直す中においてとらえるべき課題であると考えております。小学校では平成4年度から、中学校では5年度から新学習指導要領に基づく教育が行われます。そこでは、自ら学ぶ意欲と主体的に考え、判断し、行動できる能力の伸長を目指しております。それらの資質や能力は、家庭や地域社会における生活において生かされることによって深められ、根づくことになります。したがって、遊び、自然体験、社会体験、生活体験などが重要になってまいります。家庭や地域社会をこのような教育の発展の場として、子供がゆとりのある生活の中で自分のよさを発揮して自己実現を図れるようにするのが、学校週5日制の趣旨であると考えております。

次に、小さな第2点目の取り組み方についてでございますが、市内各小中

学校、幼稚園の校長、教頭、教諭から成る学校週5日制対策委員会を組織し、具体的な進め方、課題等について6月に答申をいただくことになっております。それを受けまして、さらに具体的に組みんでまいりたいと、このように考えております。

終わります。

◎議長（福原 勤君） 宮沢治海君。

◎5番（宮沢治海君） ありがとうございます。それでは、再質問をさせていただきます。

まず、都市計画道路の進捗状況についてでございますが、ただいまの御答弁によりますと、12路線ということでございますが、進捗率35%ということでございます。そして、それには川名真倉、これは館山バイパス線、そして八幡高井線、これが進捗状況としては完成という形になっているかと思えます。また、今後の取り組みといたしましては、昨日、日下議員の質問の中にもありましたように、今後都市計画道路としましては、青柳大賀線ですか、この買収の方にかかるというふうな形でございますが、これは1路線としてありますが、あと全体の、いわゆる12路線のうち3路線、もしくは海岸道路がありますが、4路線は進捗するといたしまして、あとの8路線についてはどのような進捗状況を見込まれますでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） あとの道路については、先ほども市長が御答弁申し上げたとおり、まず127号のバイパス、それに伴います交通渋滞を緩和すべく、今宮沢議員がおっしゃった道路でございますけれども、今後とも整備計画を立てまして、それに組みみたい。しかし、年度はどうということはない。非常に――八幡高井線についても10年かかる。バイパスについてはもっと時間がかかっている中で、非常に困難かと思われますけれども、実現に向けて進めていきたいと思えます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 宮沢治海君。

◎5番（宮沢治海君） お伺いいたしますが、都市計画決定により、これは

スプロール化、もしくは無秩序な開発を防ぐという目的があるわけですが、その方法として開発の規制、建築誘導等があるとお聞きしていますが、今回の場合は都市計画道路に決定されたいわゆる12路線上における私権の制限について、どのような規制があるのかお聞かせ願いたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） お答えします。

都市計画法の規定により、建築物の主要構造部が木造、それから鉄骨またはコンクリートブロックづくりで、階数が2階以下であり、地下を有しないものについては、県知事の許可を受ければ建築することは可能でございます。以上です。

◎議長（福原 勤君） 宮沢治海君。

◎5番（宮沢治海君） そうしますと、私としましては、この計画道路の網をかぶせられた市民の実態においては、かなりの規制があるのではないかなと考えます。そして、ただいま進捗状況をお聞きした中においても、青柳大賀線は進む。しかし、その他の線については、いわゆる年次計画も、今のところ必ず完成はさせるんだが、具体的なものはないであろうというふうなことがあるわけでございますと、そうしますと私ごく普通に考えますに、まずこの計画道路は昭和44年に選定されたとお聞きしておりますが、その44年に選定された、その当時の予想できた車社会、また館山市の全体的な将来像、または車社会の利便性とか機能性とか、そういうものを考えた場合において、今後においてはかなり変化があるのではないかなということと、またいわゆる私権の制限があり、その中においていわゆる開発も中途半端に終わってしまうのではないかなということとをあわせて考えた場合において、変更とか、もしくは見直しとか、そういったものを積極的にしていくべきではないかなと考えますが、その点についてはいかがでございましょうか。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 現在計画設定されている道路網は、用途地域等の土地利用及びネットワーク上から決められており、現時点において計画を変更することは考えておりません。都市計画事業は長期的展望に立って行わ

れるべきものであり、事業の困難性によりまして、先ほども申しましたが、  
も、非常に難しいからといって計画変更すべきではないと考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 宮沢治海君。

◎5番（宮沢治海君） おっしゃることはもちろん、都市計画がそのような趣旨のもとに作成されたことは事実であると思います。しかし、今後のいわゆる都市の構造というか、そういうものを考えた場合において、積極的大胆に問い直していくべきではないかなと思います。そして、そのことは館山市の基本構想の中においても、都市のマスタープラン作成の中において、計画道路見直しについても行うというふうに書いてあったと思いますが、その点に関しましても積極的に——普通に考えた場合において、この道路は恐らく無理ではないかなというものが何本か感じられますものですから、その点も大いに市民の都市計画審議会、そういったものの意見を聞いて、積極的に取り組んでいく必要があるのではないかと考えます。

関連いたしまして、都市マスタープランの作成はどのような状況にあるのかお聞かせいただきたいと思いますが、お願いします。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 都市マスタープランは本年度と来る来年度の2カ年の事業で行われております。現在は現況把握及び将来の課題について調整を行っている段階でございます。先日も各課のそれなりの人が集まりまして、いろいろな問題を提起し合ったわけでございますけれども、そんなことで現況把握で終わっております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 宮沢治海君。

◎5番（宮沢治海君） 都市マスタープラン、本当に館山市にとりまして基本構想が絵になる、図になる、またいろんな住宅の問題、工業の問題、いわゆるゾーニングの問題、大変な重要な要素を持っていると思いますので、いろんな意見を聞きながら慎重に進めて、すばらしいものを企画していただくことをお願いいたします。

次に、公共下水道の方の質問に移らさせていただきます。公共下水道が都市生活において必要であるという認識にもかかわらず進まなかったのは、多大な費用がかかるということもあります。今回館山市において実施されることは大変すばらしいことであると感じます。しかし、多大な費用、多様な財源に依存するということは、常にいずれかがどれだけの部分を負担すべきかという問題に直面し、互いに負担を免れようとする傾向を生じさせることがあります。館山市の下水道整備事業の促進を期するためには、財源の負担区分の割合を明確にする必要があると考え、質問しましたわけでございます。さらに、その御答弁の中においては、いわゆる受益者の中において利益を受ける者に対し、利益の一部を負担させることということがあります。この負担の中においても、できるだけ市、もしくは国費、もしくは地方債とか、そういった中において負担していくのが当然であろうと思い、できるだけ受益者負担の方を少なくしてほしいという要望です。そのためには今現在より努力をしていく必要があるんじゃないかということで質問させていただいたわけでございます。

さらに、もう一步進ませていただければ、受益者負担金の金額は当然未定でありましょうが、その徴収方法が考えられるのであります。その徴収方法によりましては、市民の納得のいく場面、ここはこういうふうにしてという場面が出てくるかと思いますが、そのようなものはどのようなものがあるのか。また、今後はどのような方法で検討し、決定していくのかお聞かせ願いたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 前段の受益者負担金をかける方法でございますけれども、公共下水道は終末処理場の事業と、それから太い管を入れます主要管渠というんですけど、その部分と、それから小さい末端管渠という三つのものに分かれておるんですけども、その中で市民に負担していただくものは末端管渠があるわけです。その補助金を除いた金額の事業費と、それを全体の事業の面積で割ったものを積算の基礎とするわけでございますけれども、まだその何分の1を負担してもらうかということまでは検討しておらない

わけですけど、何としても11年でございますので、それで幾らかと言われましても、まだ経済変動、いろんな物価の変動等がありますので、そこまでのことは検討していないんですけども、とりあえずそんな考えで、事業を実施したときに負担していただくという考え持っています。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 宮沢治海君。

◎5番（宮沢治海君） 公共事業の場合、例えば西口で区画整理が行われる。これは減歩というものがあります。また、再開発事業の場合においても権利変換等があり、またほ場整備等においても、いろいろな面で恩恵に浴する者がそれなりの負担を出すことは当然であろうかと思えます。しかし、その過程において、いわゆるすばらしいものができるという総論においては賛成であるが、各論の場面になると、いざ自分の実際の身にかかる場面において、なかなか一歩前に足が進まないというのがいわゆる公共事業の現状ではないかと思えます。そういうことを考えました場合において、下水道室では一生懸命やっておりますが、いろんな場面において、こういうふうにかかるんで、こういうふうになるんだよということは、実態を明らかにし、積極的に取り組んでいくことが大事じゃないかと思ひまして、質問させていただきました。

また、中には、今回は下水の排除方式において、いわゆる雨水と一緒にまぜたり、汚水と雨水と一緒にする、また汚水だけにする、雨水だけにする場合においても、工事の中における工事費等も違っているというふうにあります。その中において分流方式にしたということは、受益者の負担金の方を多分に少なくしようじゃないかというふうな私は考えを持つわけでございますが、今後も進展状況にあわせて市民の方に説明をいただければ、市民の方も賛成して進んで受益者負担金の方も負担するんじゃないかと思ひますが、よろしくお願ひしたいと思ひます。

次に、学校週5日制の方に移らせていただきます。いわゆる社会の変化にというふうなことがありました。この社会の変化にという中に、労働条件の変化にという項目があったのじゃないかと思ひます。私はこちらからの発想は余り好きではないんですが、条件でございますので、一応御質問させて



いただきます。つまり労働条件の変化とは、週休2日制が企業に定着してきたのではないか。それにかんがみていわゆる人事院の答申にもあるように、公務員も週休2日制にすると、もちろん金融機関も週休2日制になると、では学校も週休2日制になったらいいじゃないかと、そういうふうな観点から来たのではないかと思います。

では、その労働条件の変化によれば、現実の状況はどうなっているかといえますと、完全に週休2日制を実施しているのは、まだ日本の全体の企業の50%前後であると言われております。現在は中小零細においては、週46時間体制を1993年までに目指す。いわゆる隔週をまず定着させようではないかというふうな形で進んでおります。また、年間労働時間においては1,800時間という目標に対し、2,100時間というのが現実であります。まだまだ労働条件等の変化による週休2日制というのは、まだ完全には定着していない。このような状況において、週5日の実行の際、家にだれもいない。つまり極端な例で言えば、週休2日制が完全に定着していない夫婦共働きで、家におじいちゃん、おばあちゃんもいないという家庭が出てくるのではないか。特に低学年の子供たちがそういった場合において、家にだれもいない場合に帰していいのか。そういった場合はどのように対応するのか。具体的な例として御説明いただければ、大変安心する場面もあるんじゃないかと思いますが、よろしくお願いいたします。

◎議長（福原 勤君） 福原教育長。

◎教育長（福原 修君） 今般の学校週5日制の問題が出てまいりました条件の中に、労働時間の短縮というのが主体じゃないかというようなお話でございますが、それだけじゃございませんで、先ほど議員さんのおっしゃられました、社会の変化に対応した新しい学校運営等のあり方に関する調査研究協力者会議——我々協力者会議と呼んでいますけれども、この協力者会議の最終のまとめを読みますと、もちろんそれもあったでしょうけども、そのほかいろいろと、価値観が多様化したと、国際化、それから情報化、核家族化、あるいは高齢化とか、そういうようないろいろ社会が変化してまいったので、学校経営というものもそういうのを無視してはもうやっていけないんじゃない

いか。それで、明治以来の学校6日制を、こういう時代になったので学校5日制に変えていかにかいけないんだと、こういうのが趣旨でございまして、ただ単に労働時間だけというわけではないと思います。

そういうような学校の勉強時間を短くする過程の中において、しかも学力を落としてはいけない、人間性を高めていかにかいけない、思いやりのある立派な人格をつくらにかいけぬと、こういうようなことがやっぱり大事なことでございまして、私たち、したがいまして御心配なされましたとおり、いわゆるかぎっ子でございますね。学校が土曜日が休みになった場合に、受け入れる家庭がない子供をどうするかということは、御指摘のとおり非常に大きな問題でございまして、こういう対策を立てなさいよと、こういう対策も立てておかなければいけませんよというのは、やはり協力者会議では主張しておるわけでございまして、我々はこういうものも十分考えておきながら実施に踏み切らなきゃならない。そのために、先ほど申し上げました対策の協議会を先生方につくっていただきまして、どうしたならば、そういう場合に困らないようになるというのはどうしたらよろしいかと、学校はどういう体制をとったらいいかということを今研究しておるわけでございます。

我々考えられる問題といたしましては、中学生とか小学校の高学年、あるいは中学年等は何とか御家庭で家族がいらっしゃらなくても、御両親がいらっしゃらなくても、いろいろと過ごす機会あるんじゃないかと、あるいは学校へ来て — 学校も開放されますから、学校へ来ていろいろと部活動をやるとか、あるいは自分で体を鍛えるとか、あるいはいろんな施設にいるとか。一番やっぱり困るのは、幼稚園の子供であろうし、あるいは低学年 — 1、2年ですね。低学年の子供がそういう点で困るんでないかと思っております。現在調査いたしましたら、本当に現在の — 来年の問題ですから、在校生はわかります。わかりますけど、平成3年度の児童生徒の、あるいは幼児の調査やりますと、幼稚園では13名のようです、とりあえず困ると連絡がありましたのは。それから、小学校の低学年では全体で6%ぐらいと見ております。

635世帯のうち38世帯が保育が必要とするんじゃないだろうかと、こういうように連絡がございまして、またこれ年度がかわれば、児童生徒もかわりま

すから、若干異動があるかと思いますが、大体私たちはその程度の数と把握しております。

その子供たちにはどうしたらよろしいかという、今考えておりますけども、新聞等を見ますと、指導員という方を設けてくださるそうでございます。指導員を置いて、いろいろと面倒を見てもらうようになるかもしれませんし、あるいは場合によっては学校の教室等を借りて、いろんな対策を立てなきゃいけないだろうと思いますし、ただ果たしてじゃ指導員が直ちに見つかるかどうかと、適任者が見つかるかどうかという問題もございますけども、これはこれからの課題といたしまして、いろいろな対策をこれから考えていかなきゃいけないと思っております。市としても博物館が有料でございますから、博物館の設置条例ございまして、減免の取り扱い等がございますから、その規定を検討するとか、あるいは館山市社会体育施設の設置及び管理に関する条例施行規則というのがございまして、この規則もいろいろと検討を加えていかなきゃならないんじゃないかと思っております。そういうできるだけ対策を立てまして、9月の12日でございますから、混乱の起きないように、学校週5日制の主たるねらいでございますゆとりと充実、子供たちにゆとりを与え、そして家族と話し合う機会を与え、あるいは地域とともに勉強する機会を与えるという大きな趣旨が有効に発揮できますように努力をいたしたいと、こう考えています。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 宮沢治海君。

◎5番（宮沢治海君） ただいまいわゆる低学年の児童に対して指導員というふうな受け皿があると、また館山市としては博物館等の、またその中に学校施設の開放ということもありました。そういった面で、いわゆる社会教育、社会体育の場面で大いに協力していくよというふうなことがありました。受け皿の論議として、学習機会の場として地域社会が受け入れるとありますが、つまり青少年団体による指導ですとかボランティア活動、またスポーツ少年団等による受け皿が考えられるわけでございますが、これは今までいわゆる教育委員会の方で育成、補助をなされてきたわけでございますが、今後はま

すます学校5日制になることによりまして、違った面でも連絡、育成、補助等が必要ではないかなと思いますが、その辺の方の連絡の方も十分をお願いしたいと思っております。

そして、さらにいわゆる館山市の — 関連いたしまして、館山市の施設の開放という場面がありましたが、館山市においてはまだほかに、いわゆる県の施設として南パラですとか博物館、もしくは藤原公園等の施設があるわけでございますが、そちらの方への働きかけはいかがなものでございましょうか。

◎議長（福原 勤君） 福原教育長。

◎教育長（福原 修君） 当然県教育委員会といたしましても、この5日制を推進する立場でございますから、私の方も積極的に働きかけまして、便宜を図っていただけるようお願いいたしたいと、こう思っております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 宮沢治海君。

◎5番（宮沢治海君） ありがとうございます。

子供たちの受け入れについては、十分に6月のときに検討されて、すばらしい案が出ると思いますが、もう一点ちょっとお聞きしたいんです。学校週5日制となれば、これは人事院の方にあるとおり、これは学校の先生方が当然に土曜、日曜日と休みになるわけですが、先生方の休業の方というか、先生方の休みに対しては何か指導とか、そういうものは全くもうフリーにしようとか、そういうふうなものはあるんでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 福原教育長。

◎教育長（福原 修君） まだ、私が答弁申し上げたこともすべて審議のまとの話でございまして、文部省とか、あるいは県の教育委員会とか、何の指示も通知もないわけでございますが、多分こうなるだろうという仮定のものとでございます。したがって、教職員の勤務につきましても、何の指示もございませんけれども、教育新聞その他の情報を見ますと、勤務を要しない日ということになるだろう。勤務を要しない日というのは、要するに簡単に言えば休みであると、日曜日と同じだと、こういうことになるだろうと、

このように考えております。したがいまして、先生方は休みと、こう思っております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 宮沢治海君。

◎5番（宮沢治海君） 学校5日制に関しまして、いわゆる実験校の実施前のアンケートですと、先生方の60％ぐらいは賛成、子供たちは90％賛成、父兄の方は20％ぐらい賛成で、50％ぐらいが反対ではないかなというふうなアンケートが出ております。しかしながら、実施した後は、導入後は先生方が賛成が——子供たち賛成が95％ぐらいになって、父兄も65％ぐらいが賛成に回ってきているというアンケート結果がございます。これはどの実験校も地域に密着して、家庭との連携をよくとり、家庭教育とか、社会教育とか、一生懸命考えた結果によるものだと思っておるんですが、館山市においても教育の先進地と申しましたが、大変進んでいる地域ではないかなと思います。そういうことを考え合わせた場合、本年の9月12日にもう実施されることが決まっているわけでございますので、6月の答申に向けまして、子供たちが個性ある創造的でたくましい教育の場に臨めるべくさらなる御努力をお願いいたしまして、私の質問を終わらせていただきます。

◎議長（福原 勤君） 以上で5番議員宮沢治海君の質問を終わります。

次、3番議員島田 保君。御登壇願います。

（3番議員島田 保君登壇）

◎3番（島田 保君） 私が最後の質問者になりましたが、しばらく御清聴のほどお願い申し上げます。

私は、さきに通告しました3点について順次質問いたします。まずその第1点が平砂浦地域の開発と整備についてでございます。第2点が神余小学校の統合問題について、第3点が防災行政無線の整備についてでございます。

まず、庄司市政2年目の来年度予算を見ますと、サブタイトルどおり、活力ある文化福祉都市の実現に向けて大きく第一歩を踏み出したような感じがいたします。一般会計11.9％、特別会計15.1％という大幅な伸びの予算でございますが、申すまでもなく東京湾横断道路及び東関東自動車道館山線の建

設、それに伴う道路網の整備、南房総広域水道企業団の供給事業、インダストリアルパークの事業化、館山駅周辺市街地整備、上水道、公共下水道の都市基盤整備等々、地域活性化の推進を重点目標とした予算で、飛躍と調和を期待するものでございます。ただ1点、本予算の中で、私は農林水産業の前年度比12.8%の減に対しまして強く不満を持つものでございます。残念ながら初めての予算議会で、私も勉強不足でございますので、本件につきまして、は後日また勉強させていただくことにいたします。

さて、本題の平砂浦地域の開発と整備について伺いたいと思います。バブル経済の崩壊によってリゾート計画も各地で中止あるいは撤退等、いろいろ取りざたされておりますが、超高層マンション、サンヒルズ平砂浦リゾートタウン計画のその後の進展状況はいかかなものでございましょうか。

昨年、平成3年1月に農地転用が農業委員会で許可されまして、3月には開発許可されたと聞いております。施工企業では平成3年10月より工事開始するとのことですが、いまだ着工されておられません。しかし、住民のサービスといたしまして、道路改良工事が布沼東光寺前からフラワーラインまで900メートルにわたりまして、そばを流れる布沼川の護岸工事とあわせまして立派な観光道路として昨年11月に完成しました。このような経過からして、企業が計画どおり着工するものと思いますが、館山市が推進しているリゾート開発計画とは全く別の単なるマンション建設計画なのか、工事の概略の説明と今後の見通しをお願いいたします。

予定どおり完成の暁には、50階建てマンション、そのほか附属施設ということでございますけれども、最上階には展望台をつくるというお話でございますが、標高65メートルの山上に175メートルの建物という県下一の展望台ということでございます。240メートルの高さは、霞ヶ関ビル196メートル、都庁ビル243メートルの高さに匹敵するものでございます。恐らく将来館山の名物になることは間違いないと思われます。特に東関東自動車道の開通とあわせ、観光客の入れ込みもかなりの増大することが予想されます。

この布沼地区は、また市内はもちろんのこと、県下一の花の大産地でございます。農村モデル地区としてぜひとも花卉団地育成に意を注いでいただき

たいと思います。恵まれた自然環境を十分に生かすべく、関係機関、とりわけ暖地園芸試験場、あるいは農業改良普及所、農協等との連絡を密にして、そして農業者の満足のできる花卉団地の育成を図るべきだと考えます。特に今後の課題といたしましては、既成の補助金制度、もちろんのことですけれども、観光農業にも目を向け、情報提供やら高度な技術提供が大切なものであると思われます。

最近花に対する人の関心は非常に高く、花摘み園、あるいは花の直売、花があれば人が来る、そのような状況でございますので、行政面でもこの観光農業に御指導のほどをお願いするものでございます。来月4月には館野地区に館山市初め関係機関の協力で農産物の直売所がオープンする予定でございますが、もしこの神戸地区に、平砂浦地域に、観光客の増大に伴った場合に、市としてこのような直売所、あるいは花摘み所のような施設をつくる考えがあるのかないのか、そのあたりも重ねてお聞きしたいと思います。花の館山という言葉がいつか忘れられてしまいましたが、前述のごとく目新しい観光の目玉として、花を中心として観光の核として地域活性化の一助になるものと私は確信いたします。

次に、第2点としまして、神余小学校の統合か存続か、その後の経過と対策についてお伺いいたします。昭和57年に問題になって以来、いまだ結論の出ないまま教育委員会と地元PTA、あるいは小学校建設委員会との話し合いが続いているようでございますけれども、関係当局の並み並みならぬ御努力には深く感謝する次第でございます。義務教育は学校規模の適正化、校舎設備の充実、そして子供同士の切磋琢磨して成長することが望ましいこととされておりまして。現在館山市には11の小学校があるわけですが、神余小学校以外すべての学校が改築整備され、60年前の木造校舎は、文字どおり雨漏りこそしませんけれども、老朽化し、本当にみすばらしい感じがいたします。廊下を歩いてもとげが刺さりそうな感じ、大きな地震で揺れれば倒壊の危険すら感じるような古い学校でございます。私も隣部落であり、常日ごろ通う道筋でございますので、また友人、知人、親戚等いろいろ交流もございますが、大部分の人の意見は絶対存続希望でございます。それは明治7年創設の

文字どおり歴史と伝統のある小学校を、地域の方々は文化の中心として、心のよりどころとして、どうしても小学校だけは残していただきたい、この気持ちが大半の意見として受け取られます。学校の廃校は地域の文化をとられるようなもの、そんな言うに言えない寂しさのあらわれであろうかと思われます。

来年度予算案を見る限り、神余小学校の予算としまして焼却炉設置工事、プールろ過装置修繕工事のみでございます。それぞれの学校が各種施設、補修工事が進む中で、神余小学校だけが取り残される現状を見ると、過疎なるがゆえに、人が少ないゆえに、そして行政の火を見ない地域の人びとに何とか光明を与えていただきたい。辺地にこれといった公共施設も持たない地域住民の気持ちは、せめて学校だけは、この気持ちは非常に強いものがございますし、私も全く同情いたすところでございます。今後の対策について率直な御答弁をお願いいたします。

現在、生徒数33名の複式学級でございますが、幼稚園は豊房幼稚園、神戸幼稚園、白百合幼稚園とそれぞれの道に通園しているわけでございます。そして中学は館山二中へ通学しているわけで、非常に不自然な状態で子供の教育が行われているわけでございます。市教育委員会としましては、豊房小学校への統合を考えているようでございますが、実際学校の敷地は狭く、運動面でも思うようにできず、ましては団体競技などはさらさらにできない状態でございます。そしてまた、児童、友人が少ないために、競争心に乏しく、いわゆる個性を伸ばす教育や集団社会での厳しさ等を養われない等問題は多々あると思われます。しかし、この問題は神余の地区の方々の全面的な了解をいただいて、粘り強く腹藏のない話し合いをしていただくことだと思います。

学校建設委員の話によりますと、教育委員会とPTA、あるいは建設委員会との話し合いのようですが、さらにきめ細かく各部落の方々とじっくり話し合いをしていただきたいと思います。昨夜区長会長さんの方から、3月7日の夜の区長会で部落懇談会の開催の承諾を得たという連絡をいただいております。この小学校の地域における役割は、単に勉強するだけの場ではなく、



地域の文化、体育等の施設も必要ではないかと思われます。一般に学校の廃校には地元の反対するのは皆同じ気持ちではございますが、神余の地区の場合には、公共施設の皆無でありますゆえに、その心のよりどころとして反対の気持ちはより一層強いように思われます。神余地区の皆様の御理解が得られますよう、なお一層の積極的な御努力と話し合いの場の提供をお願いいたします次第でございます。

次に、第3点といたしまして、防災行政無線の整備について伺います。我が館山市は31.5キロの海岸線を有していることから、津波対策等の総合的情報体制確立のため、防災行政無線の整備を図ってきたわけでございますが、大規模な災害が発生した場合、想像を超える被害が予想されます。災害は津波に限ったものではなく、地震、台風、火災、あるいは風、雪等々、種類も多様化してきており、地域の実情に即した災害の危険性を把握するために、防災行政無線の充実を図らなければなりません。そのためには全市に情報を伝達するのが急務と考えます。近隣町村では全戸に戸別無線機を設置しているところも多々見受けられますが、当市は全戸戸別無線機の設置はいかなるものでしょうか。市民の防災意識の向上と安全のためにぜひお考えいただきたいと思います。もし無理でございましたら、屋外拡声受信機の増設をお願いしたいわけでございます。市長の御所見をお伺いいたします。

また、所によりましては重複して聞こえたり、あるいははっきりしなかったり、ひどいところでは雑音だけで、言葉が全然わからないということも随分耳にいたします。その対策はないものでしょうか。目覚ましく進歩した現代社会の中で、科学的な解決法はないものでございましょうか、あわせてお伺いいたします。

高価な施設をして、ほとんど使われない今の防災無線が、投資効率の悪さをもっと多目的に利用することはできないものでしょうか。例えば広報に利用して1日1回程度は定時放送ぐらいしたらいかがかと思いますが、災害や予知活動の一環として、また一つでも新しい情報を得るために、行政サービスの一環としてぜひ多目的な利用をお願いいたします。

以上、3点について質問いたします。御答弁によりまして再質問をさせて

いただきます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの島田議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1、平砂浦地域の開発と整備について、そのうちの小さな第1点目、超高層マンションについての御質問でございますが、サンヒルズ平砂浦リゾートタウン計画は、展望台、商業店舗等を備えた50階建て及び40階建てのリゾートマンション及びリゾートホテル等が計画されております。平成3年12月には開発区域への進入路の整備が完了したところでございます。

今後の見通しにつきましては、平成4年11月ごろに敷地造成工事に着手し、全体計画が完成するのは平成12年を予定していると事業者から聞いております。

次に、小さな第2点目の地域の特性を生かした農業の振興についての御質問でございますが、当地域は自然環境に恵まれ、南房総の特性を生かした花卉栽培地域でございます。平成2年度、3年度にわたり布沼地区に基盤整備事業を実施し、平成3年度には鉄骨ハウス12棟を建設し、パイプハウスとあわせた集団施設化を促進し、花卉産地の育成を図っているところでございます。これらの施設につきましては、将来地域の特性を生かした農業振興に十分役立つものと考えております。

また、観光農業につきましては、これまで生産者が主体となり、長年の努力と研究の結果、イチゴ狩りや花摘み園などとして定着させ、現在では館山の観光振興の上で大きなウエートを占めております。市といたしましても、今後関係者等の意見を聞きながら、観光農業の推進に努めてまいりたいと考えております。

次に、大きな第2、神余小学校の統合問題につきましては、教育長から答弁させます。

大きな第3、防災行政無線の整備についての小さな第1点目、難聴地域解消のため屋外拡声器の増設について及び第3点目、多目的利用についての御質問は関連がございますので、一括してお答えいたします。本市で最も配慮

しなければならない災害は、地震と津波災害でございます。中でも、海岸線に沿って市街地が形成されておりますので、津波対策を最重要課題として昭和60年度から3カ年間の継続事業として実施したものでございます。また、防災行政無線の使用の基準につきましては、防災に限って使用することとして設置いたしましたので、屋外拡声子局から放送があれば、災害に関する緊急、かつ重要な情報を提供しているという認識が市民の皆様に定着してきているところでございます。そこで、従来どおり災害に関すること以外は使用しない方針でございます。したがいまして、屋外拡声子局の増設につきましても、現時点におきましては考えておりません。

次に、小さな第2点目、雑音防止策についての御質問でございますが、屋外拡声子局からの放送が聞き取りにくい、二重に聞こえるということでございますが、建物の構造、大きな建物の陰、山からの反響等屋外拡声子局の立地条件等が影響すると考えられますことから、市民の皆様の声を参考に防災行政無線の保守点検業者と調査の上、雑音防止の解消を図ってまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 福原教育長。

（教育長福原 修君登壇）

◎教育長（福原 修君） 神余小学校の問題につきまして貴重な御意見、まことにありがとうございました。

統合問題につきましては、これまで何回も区長会、学校問題委員、あるいはPTAと話し合ってまいりましたんですが、地区住民の方々の御理解が得られませんが、非常に苦労いたしているわけでございます。個々にお会いしますと、「子供のために統合すべきだ」との意見も聞かれますが、会合の場になりますと、統合反対以外の意見が出されず、非常に苦労しているわけでございます。しかし、学校統合は既定の方針でございますので、今後とも統合実現に向けて努力をしていく所存でございます。よろしく願いたします。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 島田 保君。

◎3番（島田 保君） 御丁寧な御答弁ありがとうございました。二、三再質問をさせていただきます。

まず第1点のリゾートマンションのことでございますけれども、一応ただいま計画の概要をお聞きしまして、展望台つくる、いわゆる観光面にもかなりプラスになるんじゃないだろうかというような考えもするわけでございます。そして、今盛んにリゾート、リゾートといって、ゴルフ場等を中心とした開発計画も数々あるわけでございますけれども、ただ神戸にも現在2つのゴルフ場がございます。そして地域の経済的効果とか、あるいは雇用の増大とかと言いましても、なかなか思うようにいかないのが実情でございます。

そこで、ひとつお尋ねしますけれども、このリゾートマンションにつきましては、いわゆる県の建築基準法施行条例とか、高さ制限とか、あるいはそういうふうな問題はないものでしょうか。全部予定どおり、計画どおり建設することになっていますか、再確認のためにお伺いいたします。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 業者から建築確認が出ていませんで、とりあえず構想が40階、50階ということでございます。また、高さについては、自衛隊というんですか、保安庁の方と相談いたしまして、それはゴーが出ております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 島田 保君。

◎3番（島田 保君） 建築許可が出ていないということは——県の開発許可はおりにっていると思うんです。それだと、企業の方がやらないということですか。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 高さについては、最後には建築確認が必要だということでございますので、まだ構想の段階でございますので、その点では出てはおりますけれども、最終的には建築確認によってそれが確認されるわけでございます。おわかりでございましょうか。

◎議長（福原 勤君） 島田 保君。

◎3番（島田 保君） おおむねわかりました。

しかし、さっきも計画どおり、大体予定どおりつくるといような話でございすんで、必ずその建築申請が出るわけでございます。そのときに予定どおり許可することに別に異存はないわけですか。そして、あるいは地元に対する影響とか、そういうことは市当局としてはお考えにならないのかどうか、またお聞きしておきます。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 企業者からの計画は40階、50階でございます。それに基づいて許可が出るわけですが、それは宅地の開発許可だということでございます。建物については、最終的には建築確認が必要です。これについては、防火だとかいろんなものが備わっていなきゃいけませんので、そういうものがない限り最終的な許可は出ないということでございます。

それから、この間も企業に聞いたんですけども、一番高いところには不特定多数の展望台は必ず設けますということを言っておりました。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 島田 保君。

◎3番（島田 保君） わかりました。

実はきょう神田議員から3月7日付の朝日新聞に、今国会で都市計画法、建築基準法の改正案が出て、通るだろうというようなことで、ちょっとこれ読みますと、いわゆる住宅地、あるいはそのほかりゾート地における建築基準法の改正というものが市町村の権限でかなり制限するようなことができるというようなことが載っておりますけれども、こういうことについては事前にある程度おわかりになっているんですか、ちょっとその点お伺いしておきます。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） これについては、県の方から細かい指示、情報は流れておりません。新聞等で把握しておるわけでございますけども、これについても、あした、あさってということじゃなくて、市町村で十分協議を

して、そこで例えば白地のところをどうすべきかとか、段階に分けるべきか、あるいは住居地域はどうすべきかというのを、そういったものを検討して都市計画に反映して、そして高さの規制等が行われると思います。まだ何カ月、数年ですか、それわかりませんが、そういうことで我々は理解しております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 島田 保君。

◎3番（島田 保君） ありがとうございます。

次に、農業振興についてひとつお尋ねいたします。いわゆる今の計画が予定どおり計画されますと、かなり観光的な面が出てくるわけでございまして、いわゆる布沼地区、あるいは隣の坂井、坂足、小沼、あのあたり、西岬地区も含めて花の大産地になるわけでございますけれども、現在この神戸地区が非常に後継者もいる優秀な農村地帯でございます。この農業を生かすために、花卉集団化のためにいろんな補助事業とか、あるいは指導を受けているわけでございますけれども、これから5年後、8年後、21世紀に向けてかなりこの産地も変わってこようかと思えます。このいわゆる観光農業についてどんなお考えがあるのか、ちょっと具体的なことは無理かもわかりませんが、簡単に結構です。お願いいたします。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） 先ほど市長の答弁の中で、観光農業を現在イチゴ狩り、それから花摘みと、こういうのがかなり永年、特に花摘みあたり、これ20年近くかかって現在の観光客に喜ばれるといいますか、農業振興にも役立っているというような状況でございます。ただいま島田議員さんの方から例の布沼のモデル集団施設としての――けさほども新聞に出ておりましたんですが、こういった花の集団化、そして十分に経営が成り立つというふうな方向への農業の振興ということで進んでまいります。さらにただいまのお話の中で、40階、50階というマンション、そして屋上展望台と、こうなりますと、確かにお客様が上からの展望ということで観光化になってくるだろうと推測されます。したがって、先ほどのお話の中でも、即売所ですか、

そういうような御提言もいただきました。その展望台につきましては、平成12年というお話でございますが、大分期間もありますんですが、いずれにせよ館山市の花弁、これが観光につながる農業として大いに関係者の御意見、またいろいろと調査もいたしまして、その振興に努力してまいりたいと、こんなふうに考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 島田 保君。

◎3番（島田 保君） 前向きな御答弁、まことにありがとうございます。

いずれにしても、この完成の暁にはかなりの観光化ということが当然出るわけでございますけれども、あの平砂浦地域にはそのほかに花摘み園もございますし、ファミリーパークだとか、南パラだとか、いわゆる観光の点はたくさんあるわけでございます。これを一つにまとめたら大観光地ができるんじゃないか。これを市の行政の方で何とか少しまとめると言いますか、指導するようなことを多少考えていただけますかどうか、最後にお聞きいたします。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） 今後検討させていただきます。

◎議長（福原 勤君） 島田 保君。

◎3番（島田 保君） ありがとうございました。

じゃ、次に第2点の神余小学校の問題に移ります。神余小学校は随分話し合いを進めてきたようでございますけれども、なかなか話し合いがまとまらなくて、今のまま来ているような状態と聞いておりますけれども、8年も10年もたって、いつまでたっても話がまとまらないというのは、どこに原因があるんでしょうか。どっかに接点があったら話は何とか進む方向に持っていけるんじゃないでしょうか。まずその点の御所見をお伺いします。

◎議長（福原 勤君） 福原教育長。

◎教育長（福原 修君） 何回も対話はいたしておりますけれども、私の考えといたしては、あくまでも納得していただく、大きな問題でございますので、納得していただくというのが私の主張でございまして、そういう努力を

しておったわけでございますけれども、対話と言いますか、討論が全然かみ合わないでございます。とにかく最初から反対であると、こうやって統合で進めるということについて話を聞かないんですというのが大体主でございます、いろいろな問題はありますけど、とにかく今の学校でいいんだと、生徒は幸せだと、ですから統合なんかする必要はないんだ。みんな神余小学校の生徒は優秀だから間違いないというのが基本的にあるようでございまして、私たちから見ますと、複式学級でございます。先生方も複式でありますと、2学年を一緒にやるわけでございますから、時間的にいえば半分の時間になっちゃうわけなんですから、非常に余りいい現象ではありませんけれども、それでもいいんだというようなお考えでございましたし、非常に私たちもじゃどこで接点を見い出したらよろしいか、非常に苦労しております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 島田 保君。

◎3番（島田 保君） 教育長のお考えでは、このまま神余小学校の地域の方がこれでいいんだから、いつまでもこのままほうっておくおつもりでございますか。そうとれるようなことになりますけども、いかがなものでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 福原教育長。

◎教育長（福原 修君） 最初の答弁で申し上げましたとおり、あくまでも統合するということが基本方針でございます。でありますから、そこに向かって努力をしているわけでございますけれども、我々の努力も足りないかもしれません。説得力がないかもしれませんけれども、現状をよく申し上げまして、もう統合しなきゃならないんだというような気持ちになっていただけるように万全の努力をいたしたいと、こう思っております。

◎議長（福原 勤君） 島田 保君。

◎3番（島田 保君） 実はここに神余小学校の建設委員会の統合の経過報告が来ているわけでございますけれども、58年の1月4日に陳情書を作成しまして、59年の10月1日に神余小学校建設委員会を設立しております。そして、小学校の新築を考える。敷地の確保を目的とするような云々載っており



ます。そして、教育長を来賓、あるいは委員会とか、いろいろ話し合いの様子を書いてあるわけでございますけれども、常に総体的にはいわゆる学校を残すんだということが綿々とここにつづってあるわけでございます。これですらいろいろとにかく載った記録はあるわけでございますけれども、このあたりで市としましても、統合を前提として話をする以上、ある程度前進を図る意味からして、いつごろを目安にしたらいいのか、その点をお聞かせできませんでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 福原教育長。

◎教育長（福原 修君） これはあくまでも話し合いでございますから、何年ごろというようなわけにいきませんが、現在は校舎はああいうような校舎でございますし、これは一刻も早ければ早いほど私は現在の児童にプラスになるんじゃないかと思っております。しかしながら、そう思っても、力によって進めていくということは私はできるだけ避けたいと、こういうような気持ちなんです。でありますから、これこれという目標は置きませんが、できるだけ早くというのが私の考えでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 島田 保君。

◎3番（島田 保君） 神余区史によりますと、昭和22年に神余中学で——これは中学のちょっとデータでございますけれども、昭和26年の10月に中学の統合問題が出まして、豊房中学校と神余中学校の議が起こり、11月29日豊房村長、村会議員一同並びに神余区民約120名は学校で集会を開いた。両校統合の利害等について種々検討し、統合反対の意見続出し、青木弘県会議員が事態を收拾する。これ以後同じようなことを再び繰り返さないように希望し、閉会というようなことになっていまして、このときもかなり豊房中と神余中の統合については反対の意見が強かったようなわけでございます。そういういきさつもございますので、どうぞ今後とも地元の方の意見をよく聞いていただきまして、統合にひとつ前向きに、そして理解が得られるようお願いをいたしまして、この問題は終わります。

次に、第3点に移ります。防災無線のことでございますけれども、さっき

の御答弁をいただきましたように、戸別受信機は館山の場合にはとても無理だというようなお話でございますが、それではいわゆる屋外拡声子局というんですか、パンザマストですか、あの増設についてはいかがなものでございましょうか。余りにも見たところ、津波対策用にできておりまして、海岸に集中しまして、農村部にはほとんど――学校にある程度でございますんで、せっかくあれほど大事な予算を使って市民のためにつくるんだったら、もう少し増設いただけないかどうかお伺いいたします。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 島田議員の前半の戸別の受信機、戸別の無線機というお話がありましたけども、これについては現在 300戸各区長さん、自治防災組織の方に配置してございます。

それと、ただいまの御質問の子局の増設でございますけれども、市長が答弁いたしましたとおり、当初の目的がいわゆる地震、それによる津波の災害ということで設置をされたものでございます。したがって、現在は津波の起こり得る危険のあるところに集中していつているわけで、あとはそれ以外は避難の場所、そういうところに中心的に設置しているわけでございます。そういうことでございますんで、当初の目的からいきますれば、それで間に合うといえますか、目的達せられるわけでございますけれども、これをほかの多目的にするというようなことになると、増設ということが起こるわけでございます。ただ、これを増設する場合には、かなりのやっぱり費用がかかりますんで、そこいらを目的変えていくために市費を出していくかどうか、そこいらがいわゆるネックといえますか、問題といえますか、そういうことになっているわけでございます。そういうことで現在のところは、当初の目的どおり地震及び津波の災害に対応して、パンザマストが鳴り出したら、これは重要な緊急なときだなということを市民に知っていただいて、いわゆる退避なり、避難なりしていただくというような基本的な考えを持っているわけでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 島田 保君。

◎3番(島田 保君) いわゆる災害というのを津波に限るような感じを受けるわけでございますが、災害というのはいろんな災害があるわけでございまして、市内全域に屋外拡声子局ですか、あったら本当に情報の伝達には便利だし、市民の安全のためにいいんじゃないかと思うわけでございます。この目的も変えることはできるわけだと思いますが、例えば白浜の場合ですと、これは農村構造改善事業でやったということでありまして、いわゆる戸別受信機を導入したそうでございます。これは農村情報連絡施設ということでございますんで、いろいろまた災害だけに限るわけじゃないけれども、いろいろ聞いてみましたら、かなり戸別の受信機があるもので、放送回数も多くて、何回ぐらい使っているかということで聞きましたら、電波法にひっかかるおそれがあるから余り言われないうぐらいの、かなり利用しているような状態でございます。そういうことを聞きましても、館山の場合もせっかくあれだけあるんだから、もう少しふやしたら市民のためにいいんじゃないかなという考えがします。このあたりもう一考お願いできませんでしょうか。

また、例えば昨年1年間何回ぐらい使用しておりますか、その点ちょっとお尋ねします。

◎議長(福原 勤君) 民生部長。

◎民生部長(佐藤澄雄君) いわゆるパンザマストの増加を含めて、また戸別の受信機を含めてという、いわゆる目的を広げる問題でございますけれども、先ほど申し上げましたとおり、かなりの予算が必要となるわけでございます。まずパンザマストを増加するには、いわゆる市内全部クリアするのにどれぐらい大体かかるかという、今の状況で全部クリアする場合に大体あと40基ぐらいは必要じゃないかというような予測を立てています。1基が大体250万ぐらいかかるんじゃないか。そうしますと約1億。そうすると、操作のあと附属のものの改造等で5,000万ぐらいかかる。合計で1億5,000万ぐらいまた余計にかかるんじゃないか。それと戸別の受信機でございますが、あれが1個今のやつが大体4万円ぐらいするわけでございます。そうしますと、全戸にやるということになると、1万9,000世帯ぐらいですから、大体8億ぐらいかかりますから、補助とかいろいろあるわけでございますけれど

も、そこらの関係からでございます。

それから、放送をどれぐらいしているかということでございますが、台風の接近とかいろいろの状況によって違いますけれども、年間平均して時期的なものも見まして大体10回程度のことはないかなということで理解しております。やはり災害が昨年みたいにたくさん来る場合とそうでない場合がございますので、若干の違いがあるわけでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 島田 保君。

◎3番（島田 保君） それでは、大体了承しました。

あと、問題は雑音の防止について何らかの方法がないのかどうか。随分聞こえないとか、全然わかんないとかということを聞きますが、この方法はよく検討して調査してもらったら何とかできるんじゃないかと思いますが、その点執行部としてどのようにお考えですか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 先ほど市長が答弁いたしましたとおり、保守点検業者等と調査をしまして、雑音防止の解消を図っていきたいというふうに考えています。

◎議長（福原 勤君） 島田 保君。

◎3番（島田 保君） これで私の質問を終わります。どうもありがとうございました。

◎議長（福原 勤君） 以上で3番議員島田 保君の質問を終わります。

以上で通告者による一般質問を終わります。

散 会 午後2時39分

◎議長（福原 勤君） 本日の会議はこれにて散会といたします。

なお、明11日は議案調査のため休会、次会は3月12日午前10時開会とし、その議事は一般議案及び補正予算の審議といたします。

この際、申し上げます。平成4年度各会計予算に対する質疑通告の締め切りは3月12日正午でありますので、申し添えます。

◎本日の会議に付した事件

1 行政一般通告質問